三版

明治二十五年七月二日發兌

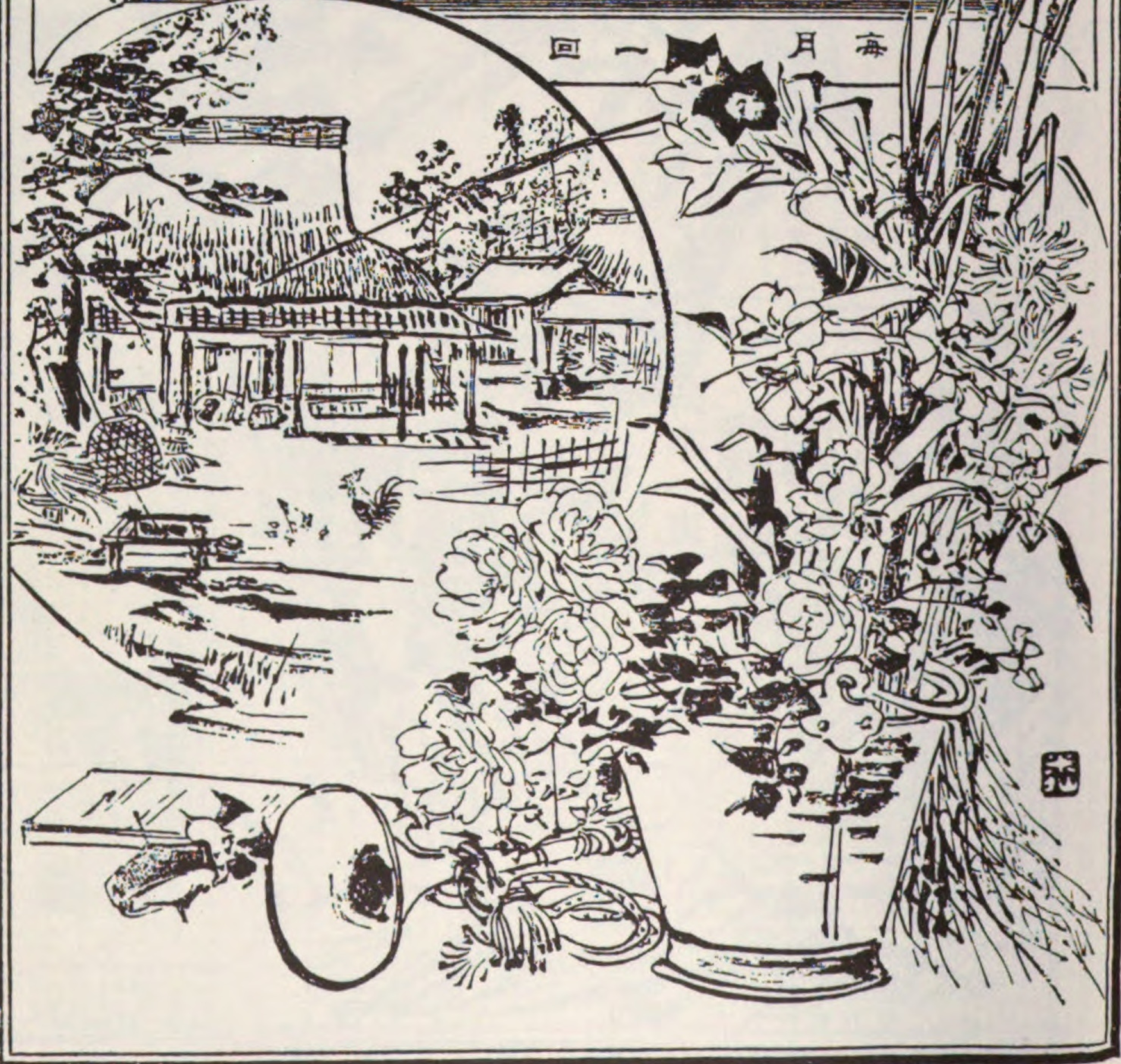
THE HOME JOURNAL

家庭雜誌

東京家庭雜誌社發兌

定價金五錢

毎月一回



第貳號

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治二十五年十月十五日發兌

家庭雜誌第貳號

目錄

巻首挿畫

獅子兒を落す圖

獅子子を墮す圖に題す（湖處子）

小兒の依賴心（錄愛倫）

社說

家庭に於ける手工……一

論說

新日本の地盤 其一 新家庭……三

史談

老女皇……七

少年の山陽……ＹＹ……一〇

友西呪の日錄……薇日生……一二

科學

空氣の話……一五

文藝

嬰兒（續）……一一生……一八

英雄の見識……家庭子……一九

無邪氣……藤野紫雲……二〇

平民的美文章……白助生……二一

露の珠……華卿……二二

新刊書……二三

家政

家庭衛生……二三

育兒瑣話……二四

雜錄

手工餘談……二六

髮……二六

調理法……二七

社交一斑……二八

十一月中に爲すべき農事園藝……二九

日用品物價……二九

遺珠顆々……三〇

保險の話（上）……三〇

雜誌事情 其一 婦人雜誌……三二

小供の爲め……三二

俚言註釋

投書

何を以てか進歩の氣運を迎へん……山東狂史……三四

時事一斑

陸軍大演習……三五

老婦人會……三五

怪事……三五

小兒保育會……三五

婦人記者……三五

行樂……三五

寄書

社會事情一斑 其二 近時の婦人及ひ青年界……三七

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

（[illegible]）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と云ふべし。吾人は此等の家庭には、切めて一個の機織器械を備へ、其廣き庭園には、切めて幾株の桑を植へ、成るべく其細君子女をして躬から此等の勞に服せしめんことを希望す。是れ獨り生活の爲のみならず、實に家庭の幸福を增加し、其品位を揚るに於て、淺からぬ利益ありと信ず。

論說

新日本の地盤

其一　新家庭

新しき布を以て舊き衣を補ふものにあらじ。新しき酒を以て舊き革嚢に盛る者はあらじ。

(一)社會は家庭の集りし者にて、家庭は社會の一分子なりとせば、社會の老んとゆるは取も直さず家庭の老ゆるなるべし。今の日本社會は果して漸く老なんとする乎、去らば日本の家庭は停滞姑息腐敗淫汚等の其をして老しむべき種子を藏する者ならざるべからず。若し其種子にしてありとせばそは何れの處にあるべきや、

(二)女子教育の流行一たび天下に洽かりしより、天晴れ末頼母しと思ふ婦人彬々として輩出し、卒業女生は新教育の桂花を翳しつゝ續々講堂より社會の庭に送られぬ。去れど此等の婦人にして一朝父母の姓を捨て、他人の姓を名乘り、某令孃と云へるを更めて何夫人と稱するに及びては、之を舊教育の婦人に比し若しくは沒教育の婦人に比して、多くは差異を見出さゞりき。是れ或は從來の女子教育が實用的ならぬに由りしなるべしと雖、新婦人の色彩が婚姻の日より直ちに褪せ去るを見れば、日本の家庭は其新しき色彩を吸收抹滅すべき濡れたる海綿なかるべからず。若しさる海綿にしてありとせばそは何れの處に在るべきや、

(三)日本の家庭は樂しき乎、勿論樂しかるべし。樂しければこそ幾多の家庭は成立ち居るなれ。去れども所謂夫婦喧嘩の如何に多く、家内の風波の如何に騷ぐかを見れば、其必ずしも平和の泉たり快樂の源たることと能はざるもの少なからぬを知るべし。看よ、世の稱して小新聞となすものが僅々數人の探訪者が耳にする出來事にして朝々報じ來て幾件か多きを。何れの國か

家内の風波なからん。何れの地か夫妻の爭なからん。去れども其多きことゝに至るは、必ず特殊の事情なかるべからず。若し果して特殊の事情にしてありとせばそは何れの處に在るべきや、(四)殊に其人生の最大恨事となす家庭の破裂（或る意味に於て）即ち離婚が、極めて驚くべき多數なるを見るに、日本の家庭には一種の恐怖すべき破壞的潛勢力が隱匿するを察せざんばあらず。

年度	結婚數	人員千に付結婚	離婚數	人員千に付離婚	結婚百に付離婚
明治二十二年	三三〇二四六	八、三四	一〇九一七五	二、七六	三三、〇五
同　二十一年	三三四一四九	八、五五	一一〇八五九	二、八四	三三、二一
同　二十年	三一五三一一	八、一九	一一七九六四	三、〇六	三七、三六

此數は實に世界に比類なき巨數なりとす。

ア、三界に家なしと敎へられ夫の家を家とすと誨へられたる婦人にして、再ひ皈らじと誓ふて家門を辭し送葬の禮を以て送られたる婦人にして、黄昏歡聲に擁せられて嫁ぎ、旦日怨恨に包まれて歸る。愛の神は以て開闢以來の大事となすこの大凶變は、現に我邦に於て年々十餘萬件起り、殆と結婚の三分の一は離婚するなり。豈忌はしき情界の爆裂彈が家庭の中に置かるゝにあらずして何ぞ此くの如き事あるべき。若しさる爆裂彈にして家庭の中に置かるとせばそは何れの處に在るべきや、(五)去ればにや日本婦人には婚姻の日を以て一生の嬉しき日なりとは思はぬあり。唯古來の慣習によりて婚姻せざるを女性第一の恥辱となし若し緣付かざる女人あればそはなみ〳〵の人間ならぬものとして世に嘲るゝが爲め、己れ一個にしては其一生を過活し能はぬが爲め、其面影の變らで年の積ることは望むべからさるの望にして小町檜垣の嫗が身のはてのいたはしかりしを知るが爲め、又嫁入せざれは死するの場所なく、子なければ末期の水一滴を惠むものなきを氣遣ふが爲め、然らざれば三界に家なしとする身には其初めて神の國土より人の國土に遷されたる父母の家も我家にあらずして一朝父母に後るれば他家の婦人來て其の弟兄と共に新たなる家庭を組織し而して己れは則ち一の邪魔物となるを悲むが爲め、竟に人生不幸の捨て處たる尼寺を除ては復た身を措くに地なきに至るが爲め、是の故に渠等の多數は詮方なく婚姻するなり。去れは婚姻は往々渠等に樂しき門出と思はれずして心配の門出と認めらる。地上の樂苑を作らんが爲めの婚姻にして、渠等の幾人は能く泣を掩はずして父母の膝下を辭したりしぞ。豈日本の家庭が渠等の爲に言ふべからざる苦

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

痛の針を含むに由るにあらずや。若し其針にして果してありとせばそは何れの處に在るべきや、

(六)看るべし、昨彌生の花を耻ぢしめたる令孃の顏が今は色褪せて所帶じみたる令夫人の面影と變るを。春秋一時に臻り開落目の前に現ずると聞く仙山の草木にあらざるに、底事ぞ婚姻は渠等をして一宵に老いしむるや。渠等は言ふ、遊樂せんと欲せば須らく嫁入前に於てすべしと。知らず渠等は快樂を以て婚姻前に一寸女性の幔幕を覗く天使の笑顏なりとする乎、また痛はしき限りと謂ふべし。物を思へば人をして老いしむ。若し日本の家庭にして果して渠等が物思ひの種子となるものありとせばそは何れの處に在るべきや、

(七)世に娼婦と稱して公然醜業を營む者あり、其數二萬七千餘人。内東京府下のみにて五千餘人を有す。こゝに遊ぶもの府下五花街を擧ぐるも、

明治二十年	仝二十一年	仝二十二年
一八八二八八六人	二〇六五八〇七人	二〇九七九二五人

此くの如くそれ多し。而して其多くは無配偶者なるべしと雖、有配偶者亦少なからず。殊に府下新橋のみにても三百人許りある藝妓に至ては、功笑倩兮たり長袖翻たり以て春宵秋月を渡る、之が顧客は幾んど有配偶者其の全部を占めんと欲す。謂ふ渠等はこれ交際の機關なりと。而して一般の婦人を交際塲理の木偶なりといひ、渠等を其良人を慰藉し其良人を愉樂し以て之をして室家に安んぜしむると能はさるものとなし、因て此等の賣笑婦を招くなり。去れど賣笑婦も同く日本婦人のみ、彼には則ち能ふとし此には則ち能はずとす、豈眞成に能はざるならんや、日本の家庭が之をして强て能はざらしむるに過ぎざらん。若し日本の家庭にして果して渠等に其天職を盡くす能はざらしむるものありとせばそは何れの所に在るべきや。

此くの如くに數へ去らばこれ日も足らざるべし。吾人は最早や之を數へざるなり。唯其何故に斯る幾多の好ましからぬ事が出で來るかを問はん。

吾人は日本の家庭に於て其組織上に一大缺點あるを認むること久矣。

一夫一婦偕老の約成て斯に家庭を生ず、男女室に居るは家庭の始なり。然るに日本の家庭は舊家庭を以て、其宜く成るべき新家庭を呑併し、兒女の婚嫁をして他の家庭に沒入せらるゝ手續きたらしむ。

社會は如何に進歩せんとするも社會の根底たる家庭が

依然として停滯的の舊家庭ならば渠が老んと欲するは其筈なり。浮世の風吹かぬ深窓の下に育したる身にして、異りたる遺傳を以て生れ異りたる家風の中に長じたる身にして、一朝身を挺でゝ他の弟兄あり姉妹あり又舅姑ある家庭に投ず、其新教育の色彩を吸取し去らるゝも其筈なり。家內の風波が起り易きも其筈なり。人生の恨事たる家庭の破裂多きも其筈なり。渠等が嫁入を以て心配の門出となすも亦其筈なり。人は二人の主に事ふること能はざるに係らず渠等は實に數人の主に事へんとするものなりとせば、其花顏の忽ち萎み月眉の忽ち傾くも其筈ならずや。渠等が滿衷の愛情を擧げて之を夫婿に灑ぐ能はずして、其夫婿をして室家に安んぜしめ得ざるも其筈ならずや。家庭の壓制に萎縮したる渠等が交際場裡に從容自得し得ざるも亦其筈ならずや。

日本の家庭は壓制組織なり、又極めて偏頗なる仕組なり。諺に、小糠三合を持たば復た入聟となること勿れと云へり。堂々たる男兒にして猶單身他の家庭に入るを難かること此くの如し、況して手弱き少女をや。吾人は世の可憐なる雛嫁が如何に夫婿に氣兼するか、如何に舅姑の一顧盻を恐るゝか、亦如何に夫婿の兄弟姉妹に痛心するかを、想像するに忍びざるなり。渠等が婚を議するに必ず先づ其舅姑の有無を問ふも尤ならずや。」

此くの如くにして婚姻は猶卑陋なる肉慾の爲とならざるべき乎。賤惡すべき貨財の爲とならざるべき乎。抑刻薄なる繼嗣製造の手續きとならざるべき乎。

若し之を惡まば新家庭をして直ちに獨立せしむるに如くは莫し。婦人をして家に嫁せしめずして人に嫁せしむるに如くは莫し。婚姻をして家庭組織の手續たらしむるに如くは莫し。

果して婚姻をして即ち家庭組織の手續たらしめん乎、之が組織者たる二人は自ら大なる準備を要すべし。而して之が準備をなさんが爲には其必然の結果として獨立心を大に發揮すべく、勤勉力も大に奮興せらるべし。

加之、渠等は自家の爲に婚姻して父母の爲に婚姻せざるが故に最も恰當なる配偶者を擇ぶを得べし。雙々對立するが故に男女同權の地盤も成るべし、婦人は幾主に事ふるの必要なきより其天眞の美質を發暢して大なる交際家とも成るべく、大なる慈善家ともなるべく、新學問も應用せらるべし。新才識も實行せらるべし。渠等は又爲に其全幅の愛情を夫婿に萃むるを得て芬芳室に滿たんとす。以て夫妻は悲みを同ふすべく、又樂みを

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

同ふすべく、而して花嫁の地獄たりし家庭はこれより婦人の王國となり、渠等は忽ちに一家の用意懇到なる女王となるべし。是に於てか渠等の王國は春花の如く輝かん。渠等の天地は秋葉の如く匂はん。此をこれ地上の樂苑とは謂ふ。

吾人は敢て宣言すべし。日本の婦人を改革し、日本の家庭を改革し、日本の精神を改革し、日本の社會を改革せんと欲せば、決して舊日本の家庭をして新日本の家庭を呑併せしむる勿れと。

史談

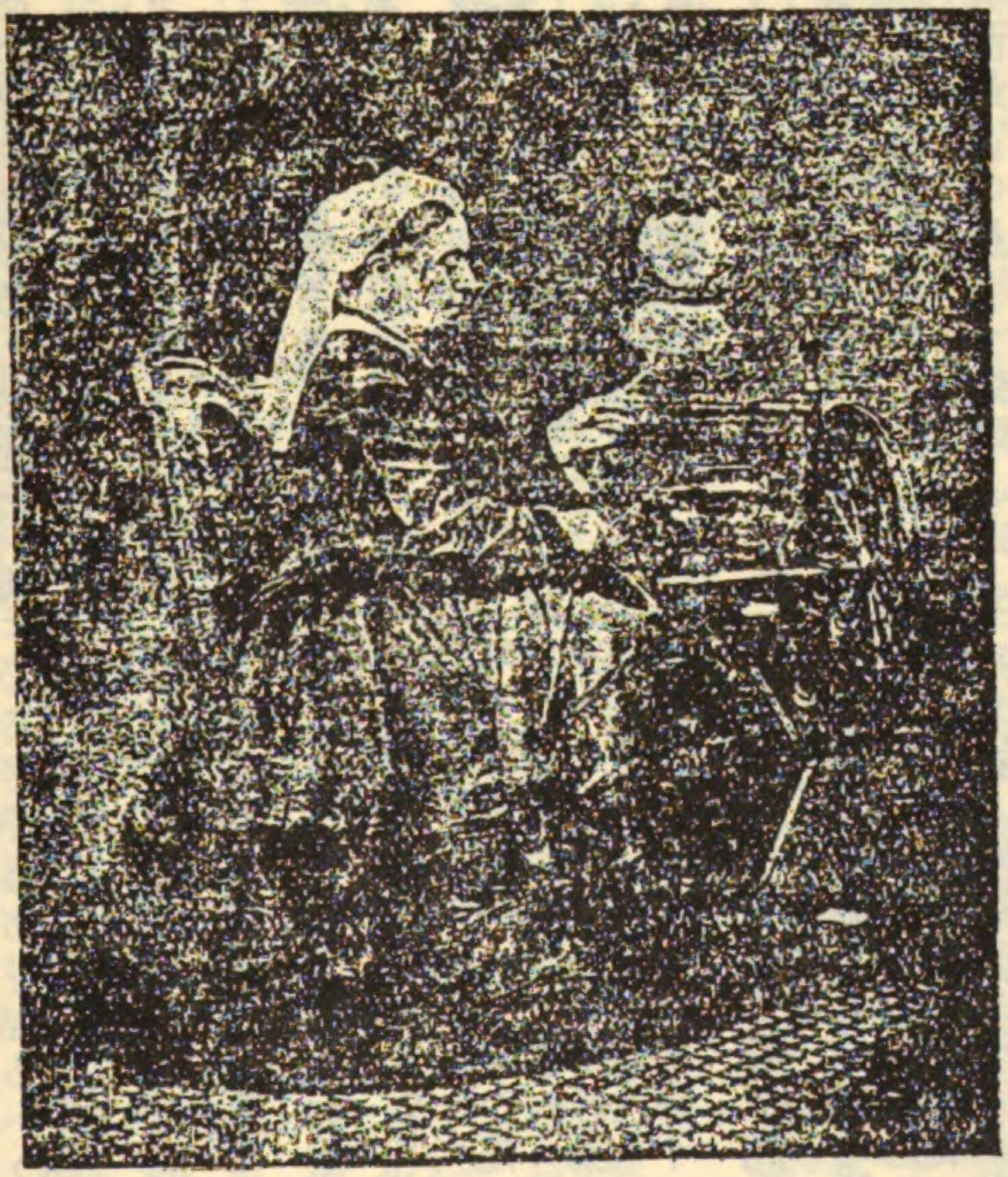
老女皇

圖に掲げたる糸くる媼を誰とか見玉ふ、日輪其邦に沒る時なしと稱へらるゝ世界一の大帝國の寶位には此の糸くる媼の坐し玉ふなり、此英女皇の坐し玉ふ也。圖には猶若く見へ玉へど、女皇當年七十三、位に坐し玉ふこと已に五十五年、此間英國は進みに進みて、其盛なることエリザベス女皇時代このかた類なしと稱へらる。若し此長く目出たき女皇の一代記を記さば、そは英國近世史を書くに齊しければ、此處には唯女皇の猶少く在せし時の事と二つ三つ記すにとゞまるべし。

女皇御名をヴィクトリアと申し、頃は西暦千八百十九年五月倫敦城外栗の花雪の如く咲きこぼれたる中にケンシントン宮に生れ玉ひぬ。父君はケント公爵とて英王惹日第三世の第四子、母君は日耳曼サクスコーブルグ家の姫君にて名は同じくヴィクトリアと呼ばれ玉へり。當時惹日三世に一人も皇孫在さゞりしかば、父君は常に未來の女皇を抱きて人に示しつゝ「よく見よ、此子他日英國女王陛下となることもあるべきに」と言ひ玉へりといふ。

女皇六ヶ月になり玉ひし時、父君俄かに失せ玉ひ、母君はもと日耳曼の生れにて英語とても十分に語り得玉

はざれば、一時は女皇を抱きて本國に還らむと思ひ玉ひしも、猶女皇他年の身の上を慮りて英國にとゞまり、腐敗の空氣滿ち〳〵たる朝廷の惡しき感化に幼な子を染ませじと、事に托して成る可く朝廷に遠かり、ケンシントン宮に籠りて保姆レーゼン男爵夫人と只管女皇の敎育を務めたる。女皇ハノーヴア家の質を受けて中々意地強く容易に人の言を聽き入れ玉はず、日々の課業にも天性の癖往々現はれ來ることゝありき。一日早く課業の終れかしと焦燥ちて二三度拗戻られしに、折しも母君入り來りておとなしく勉强するや如何にと問ひ玉ふ。時に傍にありける保姆レーゼン夫人女皇の一度スネ玉ひし事を訴へ申しければ、女皇は保姆の手をおして「否レーゼンよ、一度にあらず二度なり、御身は早や忘れしか」と云ひ玉へりと。是れ女皇五歲の年の事也。實に女皇は虛言と云ふ事をば心底より嫌ひ玉へり。



正しき母君保姆敎師等に伴ないて定まりし課業を學び、其暇には異父の姉君と唯二人ケンシントン宮中の庭に淋しく春晝秋夕を遊び暮らし、斯くて女皇十二歲になり玉ふ。此年惹日三世の後を承けし同名四世崩じ、女皇の伯父維廉四世位に即き、皇子在ざりしかば、女皇の母君はレーゼン夫人と計りて今は其身分を女皇に知らせ置かむと、一日英國王家の系圖をとりて女皇

の課業書に挿み置かる。頓て女皇は平生の如く其書を開くとて系圖を見當り、つく〴〵打見て「サテハ吾身は思ひしよりも王位に近かりけるよ」と言ひ玉ひ、暫らく默然として在せしか、頓て亦云ひ玉はく「他の子等はいかに誇らむ、サレト渠等は其困難を知らず、斯る身分には榮華も多ければ、責任は更に多きものを」と。斯くて女皇は保姆の方に手を差伸べて「吾身は此れよりおとなしくすべし、御身がせり立てゝ羅甸語までも勉强せしめし故を今ぞ知りぬ、此れよりおとなしくなるべし」。レーゼン夫人「左はれ、姫上よ、伯母君(維廉四世の后)猶御年少く在せば今より皇子の生れさせ玉ふも知れず、サレバ姬君は位を得嗣ぎ玉はで其皇子こそ位には即き玉ふべし」。女皇「ヨシヤ左る事ありとも吾身は決して失望せじ、伯母君の吾身を愛し玉ふを見れば、いかに子供を愛し玉ふかを知るなり」と。

春往き秋去り女皇十八歳の年六月廿二日、曉かけてケンシントン宮の門の戶破るゝばかり敲きて入り來る急使あり。女皇の侍者猶御寢中なる由を告げしに、使者「國家の大事にて參りたれば、是非共御目をさまさるべし」と云ふ。是れなむ維廉四世の崩御を報じ、女皇を位に迎ふるの使者なりける。夢の中より驚かされてヴイクトリヤ內親王雪白の寢衣の上に肩掛引被ぎて下髮のまゝ滿眼に涙を含むで出で來り玉ひ、使者の口上を聞き終り、大監督を請ふて竊かに共に祈禱を捧げ玉ひしと云ふ。斯くて女皇は何よりも先づ伯母君に慰問の狀を認め、何時までもウィンヅオル宮に留まり玉はんことを請はれしか、此狀の宛名を「ウィンヅオル宮に於て、皇后陛下へ」と認め玉ひしかば、侍者は傍より「皇太后陛下へ」と記し玉ふ可き由申せしに、女皇「其は吾身も知る所なれど、吾れ先づ伯母君の其身分の變はり玉へることを知らせ奉らんこと、忍びざる所なり」と答へ玉へりと。

新女皇陛下は此まで宮中深く籠り居り玉ひしことなれば、何人も皆如何なる御方やらん如何に振舞せさせ玉ふやらんと批評の眼四方より女皇の上に集まりしに、女皇は初めて朝廷に出で玉ひし時より、或は聽し或は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

浮き玉ふさまは露ばかりもなく、明らかなる聲にて勅語を讀み、少女にして女王たり、女王にして少女たり、誠によく其位置に似合玉ひしにぞ、其昔しナポレオン一世を打破りし老武者ウエリントン公も涙を流して「陛下が此老夫の娘に在せばとて斯れより上に望む所のあるべきや」と喜びしと云ひ傳ふ。

女皇位に即きて直ちに大宰相メルボルン卿より政務を習ひ玉へり。卿嘗て云へることあり、余は女王一人の大宰相たらんより寧ろ男王十人の宰相たらんと。大宰相公文書を持參して御署名を願ふ毎に、女皇は先づ此につきて數限りもなき問を發し、折々は今少し考へ見ざる内は此文書に署名し難しと答へ玉ふ。嘗てメルボルン卿此條例は至極便利に候へば是非御署名ありて然るべしと申せしに、女皇直ちに之を制して「卿よ、余は是と非とを判別することは習ひたれども、便利と云ふ言葉は聞くも欲せず解するも欲せざる所なり」と言ひ玉へり。亦嘗て大宰相至極緊要の事なればとて御署名を促せしに、女皇忽ち「其は至極緊要にもあるべけれども、吾滿足せざる文書に署名するとせざるとは吾身に取て至極緊要の事なり」と反言し玉へり。如斯く十八才の女主人中々侮り難く、大宰相も終には其高潔、誠直の風に深く感佩して、懇ろに政務を敎へ申し、道德の上にかけては評判よからぬ人物なりしが、女皇に對し奉りては一生純忠誠實の臣なりき。（未完）

少年の山陽

Y. Y.

金剛石は氣長に磨がねば光らざれども、眞珠は其儘にて光る人の性質は色々ありて、小兒の時から才かしこきものもあり、二十年位までおろかしく見えても急にすぐれ人になるものもあり一概に言ふとは出來ぬ者なれば、子をそだづるものも、我子を他人の子のやうにせんと思ふべからず、此山陽先生の話も其心得にて讀むべし。

山陽先生は安永九年即ち光格天皇御即位の年將軍德川家治（俊明院殿）の在職十九年目に大阪の江戸港といふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

所で生れた人で父は春水先生とて元來は藝州の人其頃大阪で熟師をして居られ、母は浪人飯岡某の女で矢張り學問のある人であつた。

扨山陽先生は小兒の中から餘程の變り物で時々奇妙なことを爺や孃に聞ひて笑はせたとがある。子供の色々のことを聞くのは自然に智惠をまさせる天道樣の御取計ひなり其故賢こき親は問はるゝ度に丁寧に答へて智慧を附ける樣にするなり。山陽が生れた翌年、春水先生は本國藝州公に召出され御儒者に取立られて全家廣島に引越したり、山陽六歲の時のことであつたが或る夕ぐれ、孃は行燈をつけて縫物をして居られる先生は椽側で餘念もなく空をながめて居られしが、やがて「阿孃々々天竺ッてありやうなんで御坐さい升と不意に我子に問はれてさすがの母も答にこまり「おや／＼坊はおかしなとを聞く子だよ、天竺ッて每日每晩御日樣や御月樣や御星樣がぐる／＼まわッて御出なさる所さ、山陽は此答では堂も合點か出來ず庭に飛び下りて不思儀じや不思儀じやと言ながらめそ／＼泣出された。

十歲の頃であつた、父春水先生は江戸に在番の留主に孃は針仕事の隙をみては先生に論語孟子を敎へられた、先生はよく覺へるが一向温習などをせず繪本ばかり讀んで居られた、繪本は至つて好きで八九歲の頃から讀み始められた位だから好きな筈なり。母此事を江戸の春水先生へ手紙の端に書送られしかは春水先生は繪本保元平治物語義貞記といふものを買ふて遙る／＼送りこされた故、先生はおどりあがつて喜び幾たびも繰返して見、やがて前に讀んだ繪本と月日を追ふて順序を立て、足りない所は自分で繪をつくつて補はれた。元より小兒の細工故おかしな、つたない者には相違なかるべきも後に名高ひ歷史學者となられる緒はこゝに顯はれたりと云ふべし。

山陽先生四歲の時即ち天明三年七月三四日頃より信州近國晝夜大地、震動すると雷鳴の如く、砂石など降出せしが全七日淺間山草津山燒出烈火散亂し凡そ三十五ケ村人家凡四千軒、人數凡三萬五千餘を埋め、江戸は

九日十日の頃より天曇りて日光を見ず灰降ると雪の如く、人家山林竹木皆盡く白くなれり、かゝるとさへあるにかてゝ加へて其後四五年諸國飢饉洪水などありて、四民困窮し、打こはしといふと三都に始り、町家は白晝でさへ店を閉める樣な次第なりしかば、先生も小供心に恐ろしと思はれけめ、然るに松平越中守といふ大名、將軍の親族なりしが、至りて賢人にて、此人天明七年六月老中となりしより、世の中をなほすことに骨折りしかば世は再び泰平になりけり、後來先生が外史を上りしは此人なり。

年十四五になりては、もとより儒者の家の業なれば小學、近思錄などを讀まれしが、曝書の時蘇東坡の史論を見付出し、大そう氣に入つて、それより史學に志されたりと云ふ。

文才は早くより顯れて、十四の春作られた詩に

十有三春秋、逝者已如レ水、天地無二始終一、
人生有二生死一、安得レ類二古人一、千載列二青史一、

全十五歲の春、江戶在番の春水先生に贈るとて

黃鳥喈々日載陽。辛盤遙拜向二東方一。
霧閣應レ侍二春風座一、曾否回レ頭憶二故鄕一。

友西呢の日錄（上）

薇日生

「是れもと公衆に示さむとにはあらず、そはわが深衷箇の中にこもり、わが眞情此の裡に藏るればなり、こは唯だ一人の爲にせるのみ」。とは是れ彼の女が日錄に對する覺悟なりき。一人とは誰が事ぞや。モリスの事なり。モリスとは彼の女の幼弟にして、彼の女より弱きと六歲の美少年なりき。此の美少年こそ彼の女が『第二の己』たりしなれ。その友愛の情、勝れて暄かなりしとは、彼の女が識して「われらは同じ眼を以て萬物を觀るなり、卿が美を曉る所に、われも亦た美を曉る、神はわれらの心靈を一躰として造り賜へり。」と云へるに由りても明かならめ。そも此の姉弟は何者ぞ。

ユーゼニーの生れたるは、佛國ラングェドックのレ、カイラ城中にて、ナポレオンが伊國ミラン府に、ロンバ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ード家の鐵冠を戴き、オーストルリッツに墺魯同盟の大軍を鏖にし、ツラフッルガルに困戰したりし當年、恰も日耳曼詩人界の明星、シルレルが沒したる千八百〇五年（文化二乙丑年）の事なりき。彼の女の眷族は名高かりき。祖先の中には、昔し佛軍を指揮しゝとある、セーンツリースの監督もありき。ン、カイラは幽邃の地にして、その山側の平地より、さゝやかに流るゝ溪川の水を眺め、地球の裂け目を縫ひ合せたるかとばかりに疑はるゝ綠の谷を臨むべかりき。「誰れにても羊の外に生ける物を見ることなく、鳥の外に活ける聲を聞くことなく、斯くて數日を過し得め」とは洵に彼の女が身を措きし處の實景なりき。

彼の女はグェーリンの長女なりき。彼の女の母は彼の女を育むと十三年にして物故ぬ。その末期の際に、最も優く、又た最も美しき末子を、母に代つて看護るべき遺言を聞きたるは彼の女なりき。末子は即ちモリスにして年尚ほ幼き七歲の比なりき。彼の女とモリスの間には、マリーとアランベーの二人ありき。モリスは十一歲にしてツールース小學に入り、後更に巴里のスタニスラウ大學に往きぬ。かれの幼時は洵に哀むべきものなりき、かれは伴侶とすべき兒童等を見ざりき、かれは寂しくもその父の憂へ悶へる顏の外、病み且つ死する人の中に、數多の恩惠と慰藉とを與ふる牧師を見るに過ぎざりき、是れかれをして弱き頃より嚴肅悲哀の人たらしめし所以ならめ。かれは性急にして神經過鋭、物に感激すること甚しく、洵に不幸なる少年なりき。かれは千八百三十二年（天保三壬辰年）齡二十二歲にして、かれが呼びて「ブリッターニー荒野中の沃地」と爲したるラ、チエーチーの敎會に入り、ラメンチーの訓誨を受けぬ。かれが宗敎上の感情は甚だ強くして深かりき、故にかれは新しき感得を渴き求めき。かれは其の後二年にして、千八百三十四年（天保五甲午年）二月一日巴里に僑居しぬ、是れかれが「隱れたる恐怖を以て此の世界に入りたる」初めなりき。然り、かれは此の時勞症に罹りしなり。されどかれは熱心に文學を以て、世には立たむと思ひ初めたり。かれは乃

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ち先づ一身を糊せんが爲にゴールドスミス、コレリッヂ等が取りたる手段を取らざる可らざるに至りぬ。かれはその年九月を以て、かれが甞つて學びたるスタニスラウ大學に雇はるゝこととなりき。かれは休暇の日にも、居殘りて歸省せざる少數の學生に作文を授けたりき。その學生等はかれの言を以てすれば「他の群は平野に躍りつゝあるにも拘はらず、欄の中に羸羊の如く殘されたる學生等」なりき。かれは固より員外の教授なりき、されば最下級の教授が一箇月も缺席すれば、かれは入つてその職を補ひ、之に依りて僅に二十七圓程の所得ありき。その他家に來れる徒弟は三四人計なりき。かれは毎朝七時半より毎夜九時半まで、少しの身動きもならざりき。かれは英國の文學士に相等せる教授の學位を得むと志し、その試驗の爲め準備へき、されどこは重き軛なりき。かれは斯くて安からぬ生活を營み、その齡二十八歳の十一月十五日に、青春妙齡の佳人クラオールと婚を結びぬ。かれの婚姻は幸福なるものなりしかど、『盲目なる復讐の女神は嫌忌の毒もて焠したる剪刀を携へて』近づきぬ。かれの勞症は益々かれの肉を槁せり。かれは翌年四月八日、姉ユーゼニーに書を寄せて斯く言ひぬ「われは幃帳の裡に此の日を送れり、われを慰むるものは唯だ善良なるキャロ（妻）と書物と夢とのみ、われは全く忍びて日光の伴ひ來らむ回復を待てり。」と然り、かれは此の日光を求めむが爲に、乃ち故山に歸り去りぬ。ラングエドックの幽邃なる風光は沈默してかれを迎へしかど、かれは竟に起たざりき。レ、カイラの草深き墳墓が、かれの骸軀を藏めたりしは、千八百三十九年（天保十己亥年）七月十七日の黄昏なりき。

かれが此の巴里に在りたる五箇年間の生活は、實に著きものなりき。かれは此の間に、その意見と趣味とに、大なる變化を現したりき。かれは此の間に遂に教會より遠かるに至りたりき。されどその古き信仰は、羅馬教徒として死したる、かれの姉ユーゼニーの敬虔なる努力に依りて、再びもとに復へりたりき。かれは數年の間その家に在らざりしにも拘はらず、その宗

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

教上の感情が大に變化したりしとありしにも拘はらず、ユーゼニーとの間の交情はたゞならず親密鞏固なりき。ユーゼニーは曾つて從兄を慕ひたりき、されどかれは彼の女が二十四歳の時、遂に敢果なく爲り終りき。その後彼の女は全くモリスの爲に活きしなれ。彼女の日錄は即ちこれより書かれにき。時に千八百三十四年、恰もモリスが『隱れたる恐怖』を懷きて、巴里の僑居に嘯き初めたる年なりき。

科學

空氣の話

天晴れたる日、川の岸に座し、深く、清く、緩やかに流るゝ水を見、また其の水の中に泳ぎ遊ふ鮎、鮒の類を見たる人にして、或は一の疑問、心の中に起り、之を解かんとて苦しみたることあるなるべし。或人語りて云ふ「余は小見たりしとき、水を見、また魚を見る毎に、何故に魚は或る物の中に住み、時々波また潮に漂はさるゝことあるに、我れまた人は何故に地球の上に住み、或物の中には住まぬかと疑ひ惑ひたるとありき」と。此の如き疑を懷く人は少なからざるべし、此の如き疑の起るも無理ならず、人は實に魚の住める水の如く實躰を備へ、波もあり、嵐もある「或る物」の中に住み居るなり。其の水の如き「或る物」は空氣なることは云はずとも明らかなる事なり。さらば水は目にて見ることを得るものなるに、空氣は何故見ることを得ざるやと問はゞ、其の理は、人は空氣の中に住み且つ其の空氣は瓦斯とて目にて見別くるを得ざるものなるも、水は其の外にあつて且つ目にて見るを得べき流動躰なればなり。今假りに魚の心を計り見るに、魚若し心ありて、地上に來往する人を見、鳥の飛ぶを見、風の吹くを見、木の葉の散るを見ば必す、「何故に人は或る物の中に住み波に打たれ潮に漂ふに、我は獨りかく地球の上に、或は何物もなき空中に住むやらん」と疑ふことあるべし。倘ほ一歩を進めて、假りに人、魚を釣る如

く、魚、鈎を空氣の大洋に投じて、人を魚の空氣、即ち水の中に釣り上げたりとせば、人は、魚の空中に釣り上げられたると同しく直ちに死するは明なる事實也。人の周圍には何もなきか如く見ゆれども、實は魚の周圍に水ある如く、空氣と名つくる水、到る處に溢れ居る也。人は空氣と名づくる水の中に住む魚の如きものとこそ云ふべけれ。さらば人は、如何にして此の空氣の中に生命を有ち居るものなるか。

一家の主人、或は主人程に大切なる人死せるときは、暗の夜に燈の消えたる如しと云ふは數々聞く言なり。されど此は一家の主人に限りたることにはあらず、誰にても死するは暗の夜にランプの消えたる如く、生き存ふるは暗の夜のランプの燃ゆると同じき也。ランプの燃ゆるは油のある爲め、人の生活するは食物のある爲めなることは誰しも知る所ろなれば措て云はず、只た油あるも空氣なくばランプは燃えず、食物あるも空氣なければ人は生活するを得さることのみを簡單に述ふべし、これも云はずして明なる事の如くにして實は然らず。

今を距る殆んど百二十年前英國の化學者プリストレーが大發明をなせし迄は空氣なるものは分拆することを得ざる瓦斯なりと定められ、夫より後十五年ラポアセールの發明に至るまで、人は皆な、空氣なるものは火の燃ゆると何の關係もなきものと思ひたり。されど此の二大學者の功勞により、今は容易なる方法を以て空氣なるものは二つの瓦斯の混合して成りたるものなることを知ることゝなれり。圖に示す如く此に半鐘の形なる一の玻璃罎あり、其の口は固く栓を以て鎖し、水を入れたる盆の上に之を置き、更に燐を入れたる一の盃を取り、之を盆の上、罎の中に浮ばすへし。然る後、栓を抜きて燐に火を點じ、また直ちに栓を固くし、罎の中にある空氣と外の空氣と相通ずることを得ざらしむべし。燐は白き烟を出し燃

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ゆることを暫時にして未た燃え盡きずして消え、其の後は幾度火を點せんとするも能はざることを見出すべし、また之によつて壜の中の空氣に何等かの變化起りたるを知るべし。尚ほ如何なる變化起るべきかと靜かに壜の中を窺へば、白き烟次第に消え行き、消え行くに從つて壜の中の水は上に昇るを見ん。これに因て明らかに空氣の中に何物かあつて、其の物のある故に火、燃え、火の燃ゆるに從つて其物消費せられ、空氣の量從つて減したることを知るべし。此の一物こそ彼のプリストレーが發明せしものにして、後ラボアセールが此れこそ火を燃やす力あるものなれとて酸素と名付けたるものなり壜の中に殘りたるは窒素とて酸素一に對する四の割合にて混合し、空氣なるものを作る。此の火を燃やす酸素は即ち人か呼吸して生活する酸素なり。されば若し前に記せる試驗の方を變じ壜の中に燐を入れずして鼠を入れ置くときは、暫時にして水は前の如く上に昇りて、空氣の量減じ、鼠は火の消えたる如くに死すべし。人の生活するはランプの燃ゆるが如し。人の肺臟はランプの口金の網の目なり、人の血はランプの油なり。油の中に炭素なるものあり、口金より通ふ空氣の中に酸素なるものありて、化合力と名づくる仙女の魔力にて二つのもの一に合し火となつて燃ゆるなり、人の呼吸する理は此と少しも異ならず。夫のみならず、火か酸素の力によつて燃え、炭酸瓦斯なるものを作るか如く、人も酸素を吸ひ入れて生活し、同じ炭酸瓦斯を吐き出すなり。炭酸瓦斯のことは後に讓りて詳しく云ふ時あるべし。

以上の說明によりて畧空氣とは如何なるものなるか、空氣は何の用あるものなるか、火の燃ゆると、人の生活するに如何なる關係あるかを知られたるなるべし。さらば夜、勉强せんと思ふ諸君は必ずランプの口金を清く掃除し、空氣の流通をよくし玉ふべし、壯健ならんことを願ふ諸君は、金魚を養ふものが、度々池の水を更へて新しくする如く居室の空氣の流通をよくし、時には新鮮なる空氣を呼吸せん爲めに山に上り河に遊ひ、寢ぬる時には決して蒲團を被き玉ふべからず。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

文藝

嬰兒（つゞき）

一　生

大なる邸内に百軒ばかりありて。わが家は餘ほど奧の方なるが故に、始めての來客は容易に搜し當て難き程なり、此邸の大門は夜十一時に閉ぢ、朝五時に開くをもて、五時前に配達する新聞紙は、邸内に配達すること能はざるが故に、門番の所へ抛り込んで行くなり、彼れ嬰兒は、毎朝守り女に背負はれて、新聞紙を攫み來ること中々に愛らし、

彼れは愛嬌ありて人を見ればニコ〳〵笑ふが故に、大に近隣の人々に愛せらる、又た黄豆屋の如き、豆腐屋の如き、八百屋魚屋の如きは、守り女に背負はれ居る彼れを見る毎に、必らずチヨトあやし行くなり、親族の家にては、彼れを招びて彼の語を成さゞる聲を聽くことを娯しみ、招待狀頻りに來る。

彼れは這ひ初めてより、少しも油斷がならず、新聞雜誌にても、書籍にても、土瓶茶碗の類にても、彼れは手當り次第に攫み抛ち破るなんど、中々一ト通りのヤンチヤならず、少し目を離し居れば、椽側まで這ひ付けて、將に倒まに落ちんとするをも知らざるなり、

彼れの泣き聲と笑ひ聲は高くして、數軒を隔てたる處までも善く聞ゆ、故に家人他出して歸り來るとき、五六軒さきの曲り角に於て、既に彼れの眠り居るや否やを知るなり、

七月の下旬より八月の中旬まで、凡そ二十數日間、彼れの祖母は、伊豆の親家に行きて逗留なしぬ、其歸り來りしとき、彼れは既に祖母を忘れ居たるなり、不思議なる顏付にて見つめたること、未知の人に於けると異らざりき、

犬に煎餅を與ふること、中々に彼れの喜ぶことなり、守り女は煎餅を小さく碎きて、其細片を手に持ち、犬をしてワンの一聲を發せしめて之を與ふ、彼れは犬の耳を垂れ尾を搖かすを凝視し、手を出して犬の耳を攫

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

まんとするなり、犬は時々わが家の入り口へ來り、ワン〳〵の聲を發して催促するやうになりたり、然れども嬰兒の他出せるときには、何物をも與へざるをもて、彼の居らぬ時には、犬も失望の態を爲して歸り去る、
隣家に數羽の雞あり、そが我家の入り口に來る毎に、米を散じて啄ましむ、其牝牡相呼び親子相呼びて米を啄むの狀をば、彼れは凝視して娛しむ、彼れが呼ぶやうなる、叱かるやうなる聲によりて、雞めは飛び去り飛び來るなり、
雨の降る日は彼れ甚だ不機嫌なり、天氣晴朗の日に外出するは、大人も同じく好む所なれど、殊に嬰兒は背負はれて、外出するヿを好み、雨天に逢へば怨めしさうに家外を眺め、終には泣き出すヿ多し、而して心地よく遊ぶにもあらず、心地よく寐ぬるにもあらず、泣いては母の膝へ上りて乳を呑むが故に、襁褓を濡すこと多く、これを乾かす所なし、されば嬰兒ある家にては、暑中にても巨燵を備へ置き、雨の降る日はこれにて襁褓を乾かすなり、
此頃は雨ふる毎に、近隣の稚子を招く、みな太鼓喇叭なんど持ち來りて、にぎやかに遊ぶ、彼れも大にまぎれて機嫌よし、薩摩薯位の饗應にて、珍客を招くは誠に面白し、
此頃彼れに上下二枚の小さき齒はへぬ、笑ふ毎にそがあらはれて、愛らしきヿ言はんかたなし、

英雄の兒戲

家庭子

小牧山對陣の日秀吉高山右近を召して、『明日明後日の間に是非一戰を遂げ勝負を可㆑決と思ふに付、家康方へ書狀を以て、「我等十二萬五千の人數を段々に立て、備の後には土居堀を搆へ、味方の諸勢一足も不㆓引退㆒覺悟を以て一戰を可㆑遂間、其許にも其心得あられ候へ」と申送れ』との仰せなり。其時右近申しけるは、『是は御無用なされて可㆑然候。迚も家康ろくなる御返事は被㆑致間敷候。然るに於ては御せき被㆑成無理なる御一戰を遂られ、御負可㆑被㆑成候は決定にて候』と。秀吉は『たとへ家康如何樣なる返答を致さるゝとて、それにせき

て無理なる一戰を遂ぐることあるべからず。仔細なし』迚、更に増田右衛門尉に命じて書狀を書かしめ、細川與八郎に之を德川の陣前なる岡の上に植てしめける。敵兵斯くと見るより之を取り去て、やがて返書を秀吉の陣屋近く持來り、同く棒に挿み置き歸りぬ。秀吉また與八郎をして取らしめ讀むに、家康の返事にあらず、家康の鐵砲頭渡邊半藏水野太郎作の返書にて、其文に云く、

御内書拜見仕候。然ば明日明後日の内御一戰の砌、柵堀を御備後に被㆓仰付㆒、思召切て御一戰可㆑被㆑成間、此方にても其支度可㆑被㆑仕旨、御紙面之趣奉㆑得㆓其意㆒候。其許にはいま〳〵左樣可㆑被㆓仰付㆒候。其段此方には入不㆑申候。柵堀を不㆑仕候ても皆々關東者にて一足も逃申者無㆓御座㆒候。然ㇽ上は家康え不㆑及㆓申聞㆒候㆓付、乍㆑憚我等共より御返事申上候也。

秀吉腹を立て、『扨々にくき奴原かな』との仰せに、右近傍より『かねて私申上候通、とかくろく成返事は家康被㆑成間敷と存候』と言上す。

秀吉『よし〳〵、仕樣が有』と馬を乘り出し、かの敵前の小山に上り、尻をかきまくりて打たゝき、大聲に『家康是食へ〳〵』と呼はりて歸らる。此時敵は其唐冠の兜孔雀の具足羽織を着したるを見て秀吉とさとり、鐵砲を雨の如くうち注ぎければ、秀吉は『天下の將軍に鐵砲は中らぬものぞ』と廣言し、わざと徐々引返されぬ。

史を讀で是に至る者誰か笑を催さゞらんや。書翰の意無禮なるを恚りて、『臀を食へ』と叫べば迚、勝敗の數に於て何の關する所あらん。固より矢石を冒して躬自ら之をなすには及ばぬ事なり。去れども秀吉の秀吉たる所以はまたこゝにあらずんばあらず。アヽ英雄は大なる小供なりけり。

無邪氣

藤野紫雲

稚子の頓智

親族の家に四歳になれる稚子あり、ある日其母につれられて、余が家に來り終日心地よく遊ぶ、晩になりて其母が歸るかェ泊るかェと問ひしに、其稚子は直に答へて

とまるも行くも敷へのまゝに

と言へり、こは小學校の唱歌

進め〳〵足とく進め、とまれ〳〵一度に止まれ、

止まるも行くも敎へのまゝに、

を常に兄や姉の歌ひつゝあるを、いつとなしに聽き覺へて、かく轉化し來りたるなり、

お寺は何處？

隣家の稚子、祖母を喪ひ叉た兄を喪ふ、これが爲め俄に寺院に關する新智見を得たりと見へ、遊び友立に逢ふ毎に、あなたの家のお寺は何處？と問ふ、憐むべきなり、

小兒の喧嘩

小兒の喧嘩を聽く、一兒曰くお前の婆さんが死んだとき金をやつたぢやないか、他の一兒曰く其代りに饅頭をやつたぢやないか、實にツミもなきものなり、叉た大聲に罵しるものあり、曰く己の家の牡丹餅が喰ひたいか、

神童

余が知る家に七歲の小兒あり、極めて意匠に富めり、善く地圖を摸寫して、原圖の眞を寫し取り、或は竹頭木屑を以て面白き翫具を作るなんど、大人をして舌を卷かしむ、近隣相傳へて神童なりと云ひ居れり、

平民的美文章

自助生

平民的文學は平民的美文章に由りて成されざるべからず。

平民的美文章とは、

他の貴族的のものと同じく、崇高なるも固より有るべし。雄大なるも固より有るべし。優美なるも新奇なるも亦固より有るべし。唯其性の普通的なるのみ。卑俗なるは否ず。露骨なるは否ず。斬新ならざるは否ず。平板にして奇なきは否ず。

家庭雜誌將に出されんとするや法を約しき、其第一條に曰く、凡そ文章は最も解し易く書くべき事と。此時或人誇て曰く、余はいろは四十七文字を以て書き上げ見せんと。成るに及んで之を見るに、流石は誇りしだけありて或る眼光炯々たる大記者をして其人の筆なし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と言はしむるまでに書きゝ。去れども詳に之を察すれば猶六つかしき字句なきにあらず、而して雜誌全躰は固より幾多の一層解し易くせんことを望むてふ注文を受けぬ。

家庭雜誌記者は喜んで此の注文に應ぜんと欲する者なり。何となれば家庭雜誌は專ら實用を主とするのみならず、勉めて之を解し易くせんとするは其首として唱導する平民的文學の最大要件なれば。

昔白樂天が詩を作るや、巳に成れば先づ之を家の老嫗に讀ましめしと聞く。老嫗讀で解すれば則ち錄し、解せざれば則ち錄せず。故に渠は寧ろ平民的大詩人なりき。然れども渠の詩は其平民的なるが故を以て貴からざるはあらざりしなり。

福地源一郎氏嘗て文章を作るの大秘訣を語る。曰く、如何にせば讀者に最も解り易からしむべき乎是れなりと。蘇東坡亦言ふ、凡そ文章、少小の時は須く氣象をして崢嶸に采色をして絢爛ならしむべし。漸く老ひ漸く熟して乃ち平淡に造る。是れ平淡ならず、乃ち絢爛の極なりと。

かの好んで行文を六つかしくして之を高尚なりと思ひ、務めて難字晦句を用ゐて其技倆を衒はんとする者の若き、焉ぞ與に平民的文學を語るに足らんや。

然らは何を以てか之を解し易からしめん。曰く其書んと欲することを先づ巳れに明かにせよ、巳れの最もよく知ることは讀者亦最もよく之を解すべし。

露の珠

琴卿

村雨の過ぎがてに、
花に置く露の珠、
手に掬らば滚れもすべし。

村雨の過ぎがてに、
草に置く露の珠、
袖觸れば碎けもすべし。

村雨の過ぎがてに、
野邊に置く露の珠、
風吹かば散りもやすべし。

新刊書

『青年と教育』　民友社發兌

御用教育の頽波滔々として天に滔るに當り、身を挺して之を支へんと欲す。『青年と教育』亦健氣なりと謂ふべし。『青年と教育』は民友記者が立憲國民の教育を論じ、其積極的教育主義を明かせしものなり。凡て十有七篇、之を綜るに

新言千纒萬條に亘ると雖、約すれば我青年をして獨立、自尊、自治、勤勉、誠實にして欺かず、眞摯にして懈らず、以て其天賦の能力を發揮して、善良なる市民となり、愛國義勇の國民となり、圓滿完全の人間とならしめんことを期するに在るのみ。

の一言を以てせり。以て著者の道德主義を知るべく、以て此書の何書なるかを察すべし。要するに西洋品行論を知り西國立志篇を知る者は亦著者を知るものなり。

『萩花集説』　東京堂發兌

萩花に關する考證古歌等を錄したるもの、號して『萩花集説』と云ふ。文學用萩花の資料なるべし。伊藤順子輯む。

家政

家庭衛生

人數多き家内にては、常に一人位の病人怪我人は絶ゆる暇なきものなり、大病なれば勿論醫者の診察を要すれども、多人數の家にて聊かのことに一々醫者を招ねきたらんには、醫者のために身代限となるに至るべし、かゝる家にては少しく普通の醫療法を心得をかば大に手間と費用を省ぶくを得べし、

（一）小供の咳

一年の内最も多く病人を生ずる時候は、春の初めと秋なり、その内にも今年の如く氣候定まらざる秋は、老人小供のためには大なる注意を要すべし、殊にこれより最も冒かされ易すきは小供の咳なり、咳は小事として見捨て置き易すけれども、咳よりして氣管支炎となり、それより轉して肺病となり、其他不測の病に變わり易すければ、通常の感冒の如く忽にすべからず、之を醫するに發汗の法は最も安全にして、且つ有功の法なれども、二三才の小供は活動を好みて、靜づかに室内に暖氣を取るを得ざる場合多ければ、小サジ一杯のイペカク（阿片龍腦チンキ）を、コップ一杯計りの水に混して、瓶の如きものに入れをき、毎一時間に小サジ一杯づゝ之を與ふべし、若し藥舗にてイペカクを求むるの便なくば、吐根シャリベッにてもよし、又フラ子ルの片を樟腦油にひたし胸部に置くは益あり、是れ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

痰を吐き盡くさしむるの力あるなり、若し此事かなわずば、單に綿のみを置きても多少の益あり、感冒によりて咳をなす小兒を、外の寒氣に觸れしめ、或は室内の風の流通甚だしき處にをくなど、痰を取るの用意をなさずして、醫者を招くは無益なり、感冒の時は凡て皮膚の氣孔を廣大ならしむるの藥を用ゆる故に、もし寒氣に遇わしめば、平素よりは反て感冒なし易きものなり、かゝる時には一寸の保護は一尺の醫藥に勝ることを知らざるべからず、

(二) 寒冒

寒冒は百病の基と云へば、輕き病とて捨てをかば、不測の大患に至る事あるへし、四期の内特にこの頃よりは、人々暑きになれて薄衣をなし、夜中夜具をぬぎなどするより氣候俄かに變ずるの際、寒冒となること多し、若し寒冒を感じたる時は、コップ一杯位の熱き牛乳を飲み、そのまゝ床に臥して發汗するを第一法とす、又寒冒中と雖、入浴は避くべきものにあらず、唯だ浴後直ちに冷氣に觸るゝとは、大に謹しむべきとなれば、湯より上れば早々床に入りて汗を出し、汗の引き去る迄は堪へて床中に居るべし、これ尤も手輕にして又過ちなき療法なり、

(三) 咽喉加多兒

咽喉加多兒の如きは、此頃より屢々起る處の病氣なれば、かゝる時のために、兼て醫師より鹽酸加里をもらひをくを要す、もし愈よ喉頭なんとなくいがらき様に覺へなば、是れ咽喉加多留なれば、右の加里を微温湯に溶解せしものを、幾度となく含み、喉に當る樣にガラ〳〵と口中にて音をさせて吐出し、又喉の外部は濕れし手拭にて卷き、その上を乾きたる手拭にて卷きをくべし、鹽酸加里なくば鹽にても可也、

育兒瑣話

睡眠の時間 (健康の秘訣)

寐起時間に一定の制限ある程子女の養育上に便なるとはなし、先つ滿三ケ月迄の子には、午前は五時頃臥床するの習慣を付くべし、起きたらば直ちに衣服を改めしめ、口中を濕ひたる布にて拭ふて乳を與へ、然る後は清涼なる空氣の中を散歩して、小鳥の囀づり、小狗の戯むるゝ等、凡て天然を樂しむの風を養はしめ、八時に至れは乳を與へて朝の眠りに就かしめ、十時に至らば入浴せしめて再び第三度目、即十二時に至る迄朝の

眠りをなさしむべし、午後は四時哺乳後は又少しく室外の空氣に觸れしめ、六時の夜の睡眠時間迄は成るべく醒めしむべし、かくて六時の乳を與へて後は、夜中十時頃に一度乳を與ふべし、此後は若し强ひて乳を求るならば、朝迄に一度び哺乳をなさしむるの外は決して乳を與へざるの習慣を養はば、哺乳時間の外は、安す〳〵と眠むりて更らに起きざるに至るべし、夜中も晝の如く哺乳するの習慣を付くるは、稚子の健康のためのみならず、母の健康に大害あるものなり、凡ての動物の爲す如く、稚子も夜中は眠るべきものに作られたるものなるを考ふべし、

哺乳の時限（時間の整理法）

限りなく乳を與ふる一般の風習より之を考ふるときは、稚子の哺乳に時を限ると云ふとは容易からざるが如く見ゆれども、そは間違ひなり、生れて一二週日の間は稚子の需めに應して何時にても哺乳せしめて可なれども、その後は二時間毎に一度づゝの割合にて、一日の中に朝六時より午後六時迄に六七回、それより後は夜中一度乃至二度を限り哺乳せしむれば、一は稚子の健康のために善良なるのみならず、時間と手間とを省ぶくに於ては意外の利益を見るべし、凡て習慣を付くるには最初を最も肝要とす、殊とに稚子は二三日の間にして全く習慣の付くものなれば、その間に尤も注意して、渧きたればとて決して情に引かされて規則を破るべからず、一度習慣となりたれば、其後は決して時間外に乳を求むるとはなきものなり、生れて四ヶ月もたちたれば、時間を漸く延ばして、誕生過ぎて食物を食するに至りては、毎日三時毎に一度とし、夜中は午後十時を限りとして與へざるをよしとす、かく習慣の付きたる上は、夜中に乳を求めて渧くが如きとは決してなし、

襁褓衣の事（胃病の起因）

生れて六七ヶ月もたちて少しく動き始むるに至りて、襁褓を着くる能わざるに至れば、心してフラチル若しくば木綿を合せたるものを、兒の腹部に巻き、止め針にて繻袢に止め、或は紐にて結びて腰の冷へざる樣にすべし、腸胃病は槪ねこの注意を怠るより來るもの多しとす、やゝ長して後に夜中小兒が告げずして小便し、夜具を濕ほすを厭ふより、蒲とんの上に油紙をしきて、その上に小供を眠むらしむる人あれど、そは反て腸を冷やし、小便を促かすの憂ありて宜からず、フラチル或はラシヤの類を以て油紙に更ゆべし、水氣を彈ちき

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

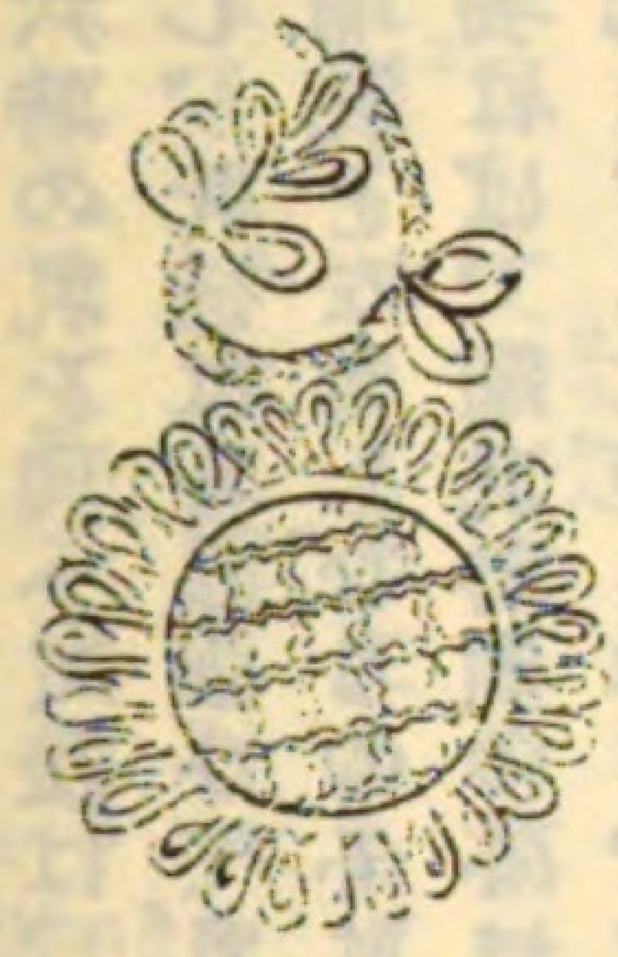
て夜具の濕ふを防せぐのみならず、又小兒の腸部を温むるが故え小便の通じを遲そくし、一擧兩得の益あるべし、

手工餘談

美麗なる花毛氈（西瓜瓠爪の種子にて作る）

西瓜瓠瓜の時候も最早去らんとす、その種子を以て美麗なる卓子かけ、ランプ臺の敷もの、或は花毛氈を作るとは一興ある業なり、圖に示したるは瓜の種子を以て作りたる卓子掛けを寫したるなり、畵の意匠は何にても望次第なれども、先づ作らむと欲する畵を絹、フラチル、金布等の如き切に畵き、その上に色取りたる種子を置き、糊にて着くるか或は糸にて止むるなり、第二圖は一圖の花を大きく畵きて讀者の見易からんとを計りしものなり、花瓣と葉は勿論、瓜の種子にて作れるも、莖の細き所は糸を以て縫ひたるなり、屢々麥の穗を以て花のずい等の細き所に見ゆることあり、かくて西瓜にて作りしものは、唐蜀黍色の絹の如く、其他のものは或は象牙の如きあり、絹の如きありて實に思もよらぬ美はしき敷きものとなるべし、

（一）



（二）

髪

頭髪の成長するは、恰も植物の地上に生育するが如し、植物に日光雨露の營養の必用なるが如く、頭髪にも躰內より出づる脂肪の養を必要とするなり、然るに外部の美を裝はんがために、不健康なる油を塗りて、脂肪の出づるを妨ぐるは、愚かなることとなり、日本の婦人に頭痛の多きは、多くは頭髪に手入れの足らぬより生ずと知るべし、

健康を重ずる婦人は、毎月一回は必して頭髪を洗ふべし、強よきあくソーダの類は有害なれば、柔らかき石鹸と微温湯を以てするを最も健康によしとす、髪を洗ひたる後に後れ毛等の下るときは、煎したる茶を以て濕るほしブラッシを以て屢々撫で付くれば、程なく天然の脂肪の出で來りて、人造ならぬ光澤を出し、美と

健康と雨ながら全ふし得べし、
平生髪に油の出で過ぐる人は、毎月二度も洗ふべく、然らざれば一度を最良の度數とす、束髪ならぬ從來の結髪は、多量の油を要するに由り、自然にその洗滌を怠たり易すけれど、一年に僅か一二度より洗わざる人のあるは、實に不健康言語に絶せり、かくて頭痛に惱まされ、頭痛は我が持病なりとて、益もなき藥を用ゆるなんど、恰も自分の力を以て喉を突きつゝ、痛さを苦しむ人と全し愚しきことなり、年齢の若かきに頭髪早く拔け落ち、時ならず秋風落日の容に立ち至るも、亦た以上の原因より自ら求むるの結果なり、細事とて輕ろ〳〵しく見爲すべからざるは頭髪の洗滌にこそ、

調理法

松葉うど

松葉うどの美味なるとは、一度味ひし人にあらざれば共に語ると能はざるほどなり、淡泊にして一種の風味あり、柔かくして口中に溶解するが如き味あるなんど他にその比を見ず、その調理法には種々あれども、最も純粋の風味を好まゝ、松葉ウドの太とく短かきものを取り、土を洗ひて周圍の皮を剥ぎ、塩湯の中にて煮ると十五分乃至卅分、かくて柔らかくなりたれは引き上げて、酢若しくは酢に白砂糖を和したる者をかけて食すべし、又湯にて煮たるものを牛肉と共に煮るも美味なり、或る人は味噌汁の中に入れ、或は砂糖味噌等を付けて珍重する人もあり、而してその松葉ウドはこの頃を植へ換への時節とす、

蠣のスープ

貝類の中にて蠣は最も滋養ありて消化し易しとの說あり、生理上その是非は知らざれども、貝類の内にて最も美味なるとは爭ふべからざるの事實なり、殊に調理の如何によりてはその味は一層の美を加ふべし、今その一二を擧げんに、

第一蠣のオムレット

オムレットは、蠣を小さく刻ざみて、その中へ二三個の鷄卵を入れ、一サジ計りのうどん粉を少しく水に解かして之に加へ、鹽、砂糖を以て加減し、能く混じたるものを焦げ付かぬ樣燒き鍋にて燒くなり、蠣を刻む前に布にて能く絞り、水を去れば堅たきオムレットを得、然らざれは柔らかきものを得べし、堅きも柔きも味は異ならざれども、こは人の嗜好によるべし、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

第二蒸蠣のスープ

先づ牛乳一合計りの中へ水を少しく割り、鹽と砂糖にて加減したるものを鍋に入れ、能く沸騰するを見計らひ蠣を入れ、その煮過ぎざる前に引き上ぐへし、(十分間ばかり) 望によりては少量のバタを加入するも可なり、煮過ぐれは堅くなりて味を損すへし、

最も美味なる密柑の乳卵糕

今や密柑の期節近かづけり、密柑は通常皮を剝き生にて食するの外殆と他の法を知られざる位なるが、左の法により飲量を製する時は、密柑がかゝる美味を有するかと疑ふ計りの者となるべし、先づ二個の卵の黄味にサヂ二杯の砂糖と少量の鹽を加へ、別に一合計りの牛乳を沸騰せしめて、徐々にかき廻しつゝ先きなる雞卵の黄味の中へ灑き入れ、深き湯飲茶碗の如きものゝ内に入れて、鐵瓶か鍋の湯の沸騰せる中へ入れをき、(尤も湯の茶碗に入らざる樣注意すべし) 殘る雞卵の白味をかきまぜて能く泡立たせ、その中へ鹽と砂糖と密柑の汁を絞りたるものを加へ、能く混和して先きなる黄味と牛乳の茶碗の中へ入れ、茶碗むしの如き狀となるを度として引き上ぐべし、密柑の汁を多く入るれは柔かく、之を減ぜば堅たきものを得べし、

(以上は米國にての密柑の使用法なり)

社交一斑

流行の冬物

羽織 は魚子織首にして市樂織次き縮緬羽二重亦見ゆ。色は黑、稀れに藍鼠、藍鐵あり。鯨八分より五分位までの三ッ紋多く、鯨一寸の五ッ紋も見榮あり。紋は追々大きくなるなり。縞物は紺地鼠の大名萬筋、両きよし、柄は市樂第一、次な繋絲織、節絲織等さす。結城紬は言ふまでもなし。

着物 白淡きもの流行し、縞柄は微塵崩し流行す。品は大概羽織に同じ。下着は市樂織、京御召等流行し、吉野織はやゝ厭かれたる如し。

帶地 は博多多く、繻珍亦流行す。

之を男物とす。女物は、

羽織 縮緬の黑三ッ紋流行なり。小紋もうけよし。内角通の意氣なる、青海波、うから、大小あられ、行儀あられ、割さんしよう等の品よき、皆勢あり。屋根板形之に次ぐ。而して令孃向には色物重にて、地質は縮緬、淡柿、淡鼠、藤鼠、梅鼠、紅掛鼠、淡藍鼠、櫻鼠等の色合。紋は三つ所の染め上げ、大さ六分五厘より七分方にす。

着物 は藍毛鼠のふき模樣に染上げ、縮緬の三枚揃ひ。これな年増方の三枚重とす。大年増方は縮緬の地質にて小紋の三つ紋に染上げ三枚を揃ふ。淡鼠色か、肉色、櫻鼠、水掛鼠の裾模樣三つ紋、之な三枚重れたるは、令孃方に品格高く極めて優美なり。縞柄にて流行は、京御召の上着に更紗縮緬の胴抜き下着。市樂織之に次ぐ。縞柄は微塵崩しの淡色。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

帶地 今歳方には縮緬の淡色大模様似合ひ、黒地の倶模様は唐繻子の代りに締めて誠に格好能く、中年以上の婦人方に流行なしぬ。腹合帶地合は黒繻子に繻珍映り好かろべし。

半襟 は前に記したるものの淡色最も流行なり。先づ縮緬八分市樂二分の姿さす。

十一月中に爲すべき農事園藝

葡萄 は高燥なる石灰地又は石礫多き土地に適するを以て、山の中腹なさの如き不毛の地に栽培し得るの便あれば、農家の爲めに利する所多かるべし、移植は十一月下旬より四月中旬迄での中、最も二月下旬より三月中旬迄を宜しさす、十一月中旬より三月中旬迄での內にて、嚴寒ならざる頃、一枝を剪み込み廐肥又は石灰の肥料を與ふべし、

桃 は生にて食するも、鑵づめさして保存し、果物の盛きたる頃に出して食するも、共に美味なれば、西洋等にても少しく庭園を有するものは、好みて之を栽培す、肥料には人糞油滓乾鰮等を良さし、植移は十一月より三月をよしさす、

杏、プラム、櫨桲等 も植移肥料共に桃さ仝し、

櫟 は十一月より翌年三月迄を移植の好時期さす、肥料には人糞糜芥をよしさす、

スグリ は苺に類したる灌木にして、美味なる小果を結ぶ、樹小にして叢生するが故に、園の周圍に植ゆるをよしさす、用法はほと苺に仝し、植かへは十一月より三月迄を宜しさす、

蠶豆 十一月上旬剛地に畦播し、原肥に堆糞を施し、澆肥に水糞を以てし、翌年六月中旬に熟莢を採用す、播種の量は一反に五升さす、

山東菜 は漸次生長するに隨がひ、稠苗を抽除して株間の距離を一尺五寸位さするを宜しさす、十一月下旬に至れば遂次重葉相圍して生ず、此の頃採收して漬物さし、或は煑て食す、

白菜 は十一月中旬に至り直立し、新葉相抱圍して生ずさ雖ども、甚だ開解し易し、此際採收し漬物さして食用す、脆軟にして頗る佳味なり、

菾菜 は十一月頃より翌年一月頃迄、漸へず其嫩葉を採收し、瀹きて浸し物さし、或は生食すべし、

蒲公英 は十一月より翌年二月三月頃に採收し、浸し物さして食用す、

蕪菁 は十一月頃採收し、うでゝ「サウス」を掛けて食し、又肉さ共に煑て食すべし

にられぎ は十一月より三月頃迄採收し、莖の下部白色の處のみを食用す、

日用品物價（十月十一日）

白米 小賣相場一圓に付、一等白米九升九合、二等白米一斗二合、三等白米一斗七合、四等白米一斗一升四合、五等白米一斗二升二合

雜穀 一圓に付、本貫大麥一斗一升五合、裸麥二斗四升、相州小麥一斗七升、上州小麥一斗八升、下總小麥二斗、常陸小麥二斗一升、並割麥一斗八升五合、新御社大豆一斗八升、常陸淘色小豆一斗七升、本場大納言一斗二升、並小豆一斗八升、南京空豆二斗六升五合、川越空豆品切、川越豌豆一斗七升、本場空豆一斗六升、會津隱元一斗三升、白胡麻一斗三升、黑胡麻一斗四升、荏胡麻一斗五升、菜種一斗八升、稗五斗五升

小麥粉 十五〆目入一叺に付、北口別挽極上三圓五十八錢、同上相川三圓三十七錢五厘、同大上二圓二十九錢、相川三圓十七錢

鷄卵 千個に付、天切の部、本貫十四匁十三圓七十錢ゟ十三圓八十錢、名目十四匁廻り、十三圓四十錢ゟ十三圓五十錢、大玉の部、本貫十二匁、十二圓八十錢ゟ十三圓、名目十二匁廻り、十二圓五十錢ゟ十二圓六十錢、中玉の部、上中十一圓三十錢、並中十一圓、並玉の部上並十圓、下並九圓五十錢、上海玉の部、(三百六十個四百個)入一函に付三圓八十錢ゟ四圓、

鰹節 十貫目に付土佐大十七圓五十錢ゟ十八圓、同小二十一圓內外、薩摩大十八圓五十錢、同小十七圓五十錢ゟ十八圓、仙臺節大十一圓五十錢、同小十三圓五十錢ゟ十四圓、

乾物類 大撰椎茸一石に付十三圓、中撰椎茸一石に付十二圓、込椎茸一石付十一圓、河茸一石に付十圓、岩茸一圓に付一貫目、木茸一石に付五圓五十錢、干瓢十〆目入一個に付、六圓三十錢、氷昆二百四十把入一個に付六圓五十錢、坂角天千本に付十圓、仝二見葛粉十斤入百箱に付百十五圓、仝吉野葛一圓に付四〆二百目、上名浮粉一圓に付二〆三百目、正眞生麩仝二〆七百目、蕨粉三〆目入一箱に付一圓三十錢、下總片栗三十

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

貫目一駄に付十圓五十錢、白玉粉仝廿二斤、紀州梅干大中小押込百樽に付八十五圓、利尻昆布一圓に付五貫目、棠芫布小把百把入百個に付十八圓、切芫布五把入百個に付四十圓、伊勢海鹿一圓に付五貫目、切鰑十〇入十貫目に付九圓、初霜昆布十玉に付四圓、

雜録

遺珠纇々

母の心は小兒の教塲なり　ピーチアル
搖籃を搖かす者は天下を搖かす　無名氏
心臟は塵のみ心臟の愛は限りなく存す　エマアソン
人の擧動は人の姿を映す所の鏡なり　ゴエテ
働きたる仕事は上出來の仕事なり
急ぎたる仕事は不出來の仕事なり　リツトン

保險の話（上）

遠き慮なきものは必ず近き憂ありと云へり。昨日までは榮耀に暮し、出るに車あり、入りては美食あり、二人の小供も兄は可愛らしき海軍士官の打扮ちにて學校に通ひ、妹は乳母に連れられて朝々幼稚園に行きしもの、一夜姤風の吹く所となりて、一家安樂の花の主は忽焉として死しぬ。幸福の源たりし俸給の泉は涸れぬ。車夫まづ傭を解かれ、乳母亦家に歸り、下女も代りて給金のやすきもの來りぬ。かよわき奥方の手はこれより自ら洗滌もせねば叶はざるべし。何ぞ榮枯地をかゆるの甚しきや。蓋し渠等は遠き慮なかりしゆゑに斯る近き憂こそ出で來りしなれ。渠等をしてあらかじめ之が準備をなさしめたらんにはなど斯くの如きことやはある。保險は實に之が準備となるべきものなり。

現時我が邦には保險に海上保險火災保險生命保險あり。今生命保險より順次に其方法仕組を說くべし。

生命保險の會社は三個あり。日本橋區坂本町四十三番地にある『明治生命保險會社』と云ふ。日本橋區檜物町六番地のものは『帝國生命保險株式會社』。京橋區釆女町十五番地のものは『大日本生命保險會社』。こゝには『明治生命保險會社』及び『帝國生命保險株式會社』の規則につき其方法の一斑を示さん。

前者は保險の方法を五種に分ち後者は之を四種に分てり。

（一）尋常終身保險　は被保險者が生存中一定の掛金をなし其人が死せし日に約束の金を請取る方法なり。約束をなすには身體檢査をうけて取結ぶことなるが、掛金は約束の時の年齢によりて異り。例之は

明治生命保險會社（保險金百圓ニ付）

利益分配付					利益分配ナシ				
年齢	年掛	半年掛	三ヶ月掛	月掛	年齢	年掛	半年掛	三ヶ月掛	月掛
一五	円一、七八	円、九二六	円、四七五	円、一六三	一五	円一、五八	円、八二三	円、四二三	円、一四五

帝國生命保險株式會社（保險百圓ニ付）

年齢	年掛	半年掛	三ヶ月掛	月掛
一五	円一、四八	円、七七〇	円、三九六	円、一三六

の如し。即ち年十五の人にして前會社にて年に一圓五十八錢（利益配當なしにて）づゝ、後會社なれば一圓四十八錢づゝ掛け、其人の死せし日には直ちに百圓を請取り得るなり。若し之に倍せる掛金をなせば二百圓、十倍ならば千圓を得べし。而して一度掛金をなしたるのみにて死するも同く百圓二百圓千圓等何程にても約束せし金は請取り得べき代りに、其人長生すれば掛金の方却て約束の金額より多くなるも同く掛出さればならぬなり。會社はこれに由りて立行き得るものとす。

以上は十五歳の人に付例を示したるものなるが、十五歳以上六十歳までは皆それ〳〵保險を托し得べし。但し掛金にはかはりあるものと知れかし。

（二）有限掛金終身保險　は被保險人が一定の年限間掛金をなし置き、其死したる日に請取るものなり。即ち保險金百圓なれば

明治生命保險會社

年齢	三年掛濟	五年掛濟	十年掛濟	十五年掛濟	三十年掛濟
一五	九、九一円	六、二七円	三、五八円	三、六九円	二、三〇円

帝國生命保險株式會社

年齢	一年	五年	十年	十五年	二十年
一五	二六、五二円	五、八二円	三、三三円	二、五二円	二、一三円

の如く、前會社にて十五歳の人九圓九十一錢づゝ三年間掛け置けば、其死したる日百圓を得べし。

(三)定期保險　は假令は保險金百圓に付

明治生命保險會社

年齢	一年	三年	五年	七年
二〇	一、一三円	一、一三円	一、一五円	一、一七円

帝國生命保保險株式會社

年齢	一年短期	二年短期	三年短期	四年短期	五年短期
一五	一、〇七円	一、〇〇円	、九三円	、八六円	、八〇円

の如く、前會社に於て二十歳の人一年の定期約束をなし、其一年中に被保險者死すれは僅に一圓二十二錢の掛金を以て百圓を得べし。去れども其定期の一年間に死せざれば之が掛金は損毛に歸するなり。

(四)養老保險　他の保險は專ら其遺族の爲に慮るものなれども、この保險は妻子なきものが其老年を安樂に暮さんが爲に須要なるものなり。

明治生命保險會社(保險金百圓に付)

年齢	五年滿期	十年滿期	十五年滿期	廿年滿期	廿五年滿期	三十年滿期
二五	……	……	……	……	三、七六円	三、一〇円

帝國生命保險株式會社年掛(保險金百圓に付)

年齢	四十歳請取	四十五歳請取	五十歳請取	五十五歳請取	六十歳請取	六十五歳請取	七十歳請取
一五	三、三四円	二、六七円	二、二三円	一、九二円	一、七二円	一、五七円	一、四八円

仝一年掛濟保險年掛(保險金百圓に付)

年齢	四十歳請取	四十五歳請取	五十歳請取	五十五歳請取	六十歳請取	六十五歳請取	七十歳請取
一五	四六、一三円	四〇、二七円	三五、七四円	三二、二九円	二九、九〇円	二六、六九円	二六、六九円

即ち前會社にては、二十五歳の人なれば毎年三圓七十六錢づゝ廿五年掛出し、其滿期の日即ち其人の五十歳の時百圓を請取り得べく、後會社の年掛なれば、十五歳の人四十歳請取の約束にて毎年四十歳になるまで三圓四十七錢づゝ掛くれば同く百圓を請取り得べし。又一年掛渡のものなれば十五歳のものにして四十歳請取させんに、初年に四十六圓十二錢掛け置けば四十歳になりし日百圓を得る方法なり。

(五)子女教育資保險　は『明治生命保險會社』に設けある方法なり。資金百圓に付

十四年受取

年齢	年掛度數	年掛	半年掛	三ヶ月掛	月掛
一	一三	五、〇〇円	二、五六三円	一、三〇二円	、四四〇円

十八年受取

年齢	年掛度數	年掛	半年掛	三ヶ月掛	月掛
一	一七	三、三四円	一、七一二円	、八六九円	二、九〇円

今一歳の兒の爲に其中學に入る資金を作らんさせは、之を年掛さして毎年五圓を掛置くべし。掛金十三回にして其兒十四歳の時其小學校を出る日は則ち百圓の資金を得るなり。

若し此等の悉しき方法及ひ其結約の手續き等を知らんさ欲するものは、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

右の會社中何れなりと規則書を取寄せて之を見るべし。又地方の人にして同く保險を托せんとするものも規則書を取寄せ見ば、各地の支店代理店等記載しあるを以て、其最近のものに至りて之が結約するを得べし。
附記、『明治生命保險會社』にての本年四月調査に據れば其被保險人合計一萬三千五百四十六人。『帝國生命保險株式會社』六月調査に據れば其被保險人一萬一千九百七十一人。

雜誌事情

其一　婦人雜誌

今其現存せる重なるものを表示せん、讀者就て擇べ

題稱	發行度數	代價	發行所	目的	主義	特色	短所	物に喩ふれば	重なる讀者
女學雜誌	毎週一回	五錢	麹町區下六番町女學雜誌社	女學	哀觀的基督教	戀愛的文學	花榮へて實少し弊讀者の實用を主とせずして記者の技倆を示さんとするにあり	山吹	女性的男子
女鑑	毎月二回	十三錢	麹町區平川町五丁目國光社	女學	貴族的保守	大奥的訓誨	床しげなれども活用まれなり	緋の袴	國學婦人
婦女雜誌	毎月二回	五錢	日本橋本石町三丁目博文舘	女學	不定（やゝ平民的保守）	記事の多種なるを以て勝る商買氣多し	撰擇精からず	勸工場	物質的女學生
婦人矯風會雜誌	毎月一回	五錢	麻布區龍土町竹越方	矯風慈善	基督教	芳烈なる意向	未考	未考	有力なる基督教婦人
婦人衛生會雜誌	毎月一回	非賣品	下谷練塀町私立大日本婦人衛生會	婦人衛生	………	平易にして卑しからず而も有益なり	未考	未考	物事に心掛けある婦人
女學生	毎月一回	四錢	麹町區下六番町女學雜誌社	女子文學	哀觀的基督教	文字精練	徒に六かしくならんとす	秋草の花	基督教高等女學生及女性的男子

これ其一二なりとす。而して中に就きて女學雜誌女鑑婦女雜誌は婦人の事のすべてに關し、下の三者は皆或る一種の目的を有す。女學雜誌は高きを以て勝らんと欲し、婦女雜誌は廣きを以て勝らんと欲す。女鑑はをさなしきを以て勝らんと欲し、婦人矯風會雜誌の矯風に於ける、婦人衛生會雜誌の衛生における、女學生の修文に於ける、共に其目的に向ては最も勉めたる如し。

讀書案内

次號より掲ぐべし

小供の爲め

俚言註釋

油斷大敵（禍は忽かせにする所に生ず）
昔、今川義元と云へるきつい大將あり。駿河遠江二ケ

國の大守として、國富み兵强く隣國を睨みまはしけり。其頃織田信長は尾張の國にありて小さき大名なりしが、今川とは親の代より仲惡かりしを以て、義元之を一と踏みに蹂躪りくれんずと、四萬五千の大軍を起して尾張の國へ攻寄せ、所々の城を攻落し、桶狹といへる所に陣を取りぬ。其勢當るべからず見へけり。義元斯くては心やすしと油斷し居けるに、敵兵忽ち押寄せ來り、雨夜に乘して背後より驀地に中堅に切り込み、周章て狼狽く間もあらせず槍をしごいて御大將に突きかゝる者ありき。哀れ駿遠二州の大守はこの騷ぎに其首を紛失し、四萬五千の大軍は蜘蛛の子を散すが如く、散り〳〵になりて逃げ歸りぬ。」是れ我が小き諸者の繪冊子に於て曾て知りたる所。看るべし、信長は小敵なりしも、闇を冒して背後より切り入つたる油斷の兵は首を持去らるゝまでに大

敵なりしことを。

急がば廻はれ(速ならんと欲せば急にする勿れ)

次郎太郎連れ立ちて小河の邊に遊べり。忽ち川向ひに美はしき草花咲きおるを見つけ、我先に之を取らんとて、太郎は直ちに小川を躍び越へしが、川幅すこしく、廣くして太郎水中に落ちぬ。次郎は年下なれば躍び越ゆること固より能はぬゆゑ傍なる橋をまはりて走り去り、太郎の水に落ちしに驚きて馳せ來れり。此時渠が手には一枝の草花ありき。

太郎もし橋を廻りたらんには次郎の弱足いかでか渠に及ぶべき。たゞ太郎は目前の近途を取りたる爲め、獨り花を折るに後れしのみならず、渠は水に落ちて衣服をくしや〳〵に汚しぬ。

坂路の屈曲しものは遠けれども平なり、一直線なるものは近けれども急なり。近途は兎角險峻きものと

知るべし。

何を以てか進歩の氣運を迎へん

投書

山東史

社會は脚なくして進む者なり。故に其行くや人の行くが如くに着々歩を移さずして、蛇の行くが如くに蜿蜒し、波の走るが如くに低昂す。昔邵堯夫は天津橋上の杜鵑を聞て地氣の南するを卜せしと云ふ。今余は教育界の趨勢を視て進歩の氣運再び瀟潮に向はんとするを察せんと欲す。蓋し教育界に於て蓄養せられたる個々の力は、早晩相一致して社會の表面に一種の新潮流を形成るべき者なれば。

看よ、明治十七八年に於て流行したる洋學が明治廿年廿一年に於ける進歩的氣運の大瀟潮を來せしことを。爾來保守的反動の波は社會を揺り〳〵て今日の極に曳き來りしと雖、低窮て復た昂るは進歩の理性なり、今や再び其昇潮を促すべき徵候として、國家的教育の反抗者漸く將に起んとす。かの曲學阿世を慣慨する者耶蘇教徒頃來の運動國家的教育主義の非難者の如き豈之が陳渉吳廣にあらずや。

吾人亦此の新氣運を迎へんが爲に、此の國家的教育が立憲國民たり獨立國民たるべき發動的新人民を育せずして徒に官臭を帶べる人民を作らんとするを不可とし、世の主義不定なる教育が徒に輕薄才子を作らんとするを不可とし、首として我が教育界の根本的改革を唱道せんと欲す。

根本的改革とは。

一、教育事務を縮小して教育を膨大にする方針を執る事。以て教育を雕假（低下にあらず）にせんと欲す。

二、教育事務家と教育家とを區別する事。以て教育事務家の變更をして教育主義の變更たらしめざらんと欲す。

三、教育家をして獨立せしむる事。以て教育家の本領を保たしめんと欲す。

四、教師を官吏とせざる事、從て之が任免の權を官署の一手に握らざる事。然らざれば有爲特立の教師は去りて卑屈萎縮せるもののみ殘らん。

從て渠等の品格下るべし。

從て渠等は曲學阿世の群に入るべし。

從て渠等は御用教育をなすべし。

從て渠等は活力なき人民を作り、官臭を帶べる人民を作るべし。

教師の貴きは其天爵を以て貴し、之に人爵を加ふれは却て其天爵を累はす。

新人民第二の父たる小學教師が等外准何等ならば、新人民第二の父は吹けば飛ばんと欲する郡區の屬吏月俸金何圓の者より下ならざるべからず。

硬骨ありて發動的性質ある者は自由の鄉天眞爛漫の地にあらざれは住し難し。

感化力あり人物陶冶力ある教師は常に受動的人物にあらずして、最も强硬なる發動的人物なりとす。新島襄氏の如き、福澤諭吉氏の如き、又佐久間象山吉田松陰藤田東湖等の如き、皆然るを見るべし。

五、大學をして自治躰たらしむる事。

大學は國家の大學にして政府の大學にあらされば、政府以外に特立して別に地歩を占めざるべからず。

自治躰にあらざれは曲學阿世の徒を養ひ易く、特立獨見の士を育し難し。

國家の元勳大政黨の首領等名望あり勳功ある者を名擧總長に推撰する如き、大學評議員に教授を撰ばしむる如き、而して大學評議員は大學に關係ある若くは特に請ふて之を加へたる朝野の碩學名士を以て組織するが如き、亦其れが自治躰の躰面を保つ一方なるべし。

六、中學をして大學の踏臺たらしむるよりは、寧ろ人物の養成所ならしむべき事。

大學の踏臺たる中學は、中學のみにして已む生徒をして往々其學ぶ所の一も實用し得るなきを歎息せしむる事あり。

此種の學校に於ける各教師は感化の統一なきのみならず、所說議論も常に衝突して、例之は倫理教師の講義ば次の時間に於て科學教師に反對せらるゝ如き事あり。

中學時代は人生の意見立ち人物定まる時代なり。人物陶冶に最も適する時代なり。

道德は理屈の外なるべからず、然れども道德教育は理屈によりて達すべきものにあらず。只活きたる換範の渠を起たしめ、活きたる感化の渠を鑄成すべきあるのみ。

學年の間生徒をして教師の家族たらしむる如き、人物鑄冶の一活

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

法なり。而して其何れの教師の家に家族たらしめんかは、只生徒と父兄との撰擇に任すべきのみ。

七、職業學校の如き實用を主とするものを奬勵する事。

八、師範學校を縮小する事及び有爲特立の教師を作るべき方針を執る事。

九、道德教育の基礎を個人的積極的の道德に取る事。

獨立國民たり立憲國民たるの資格は自立にあり、自治にあり。個人的道德は本なり、相關的道德は末なり。積極的道德は始なり、消極的道德は終なり。自治の人民を作るは教育の主眼なり。

此くの如きは其一二なりとす。

之を要するに國家の基礎は教育の地盤に立たざるべからず。教育の地盤は自由の郷に置かれざるべからず。活きたる人民を作るは活きたる教育にあらざれば能はず。未來の人民を驅て一種の摸型中に打込まんとするは、かの人の子を賊ふものなり。國家の前途を傷折するこれより甚しきはあらざるべし。

吾人が進歩の氣運を迎へんと欲する準備是れ而已耳。

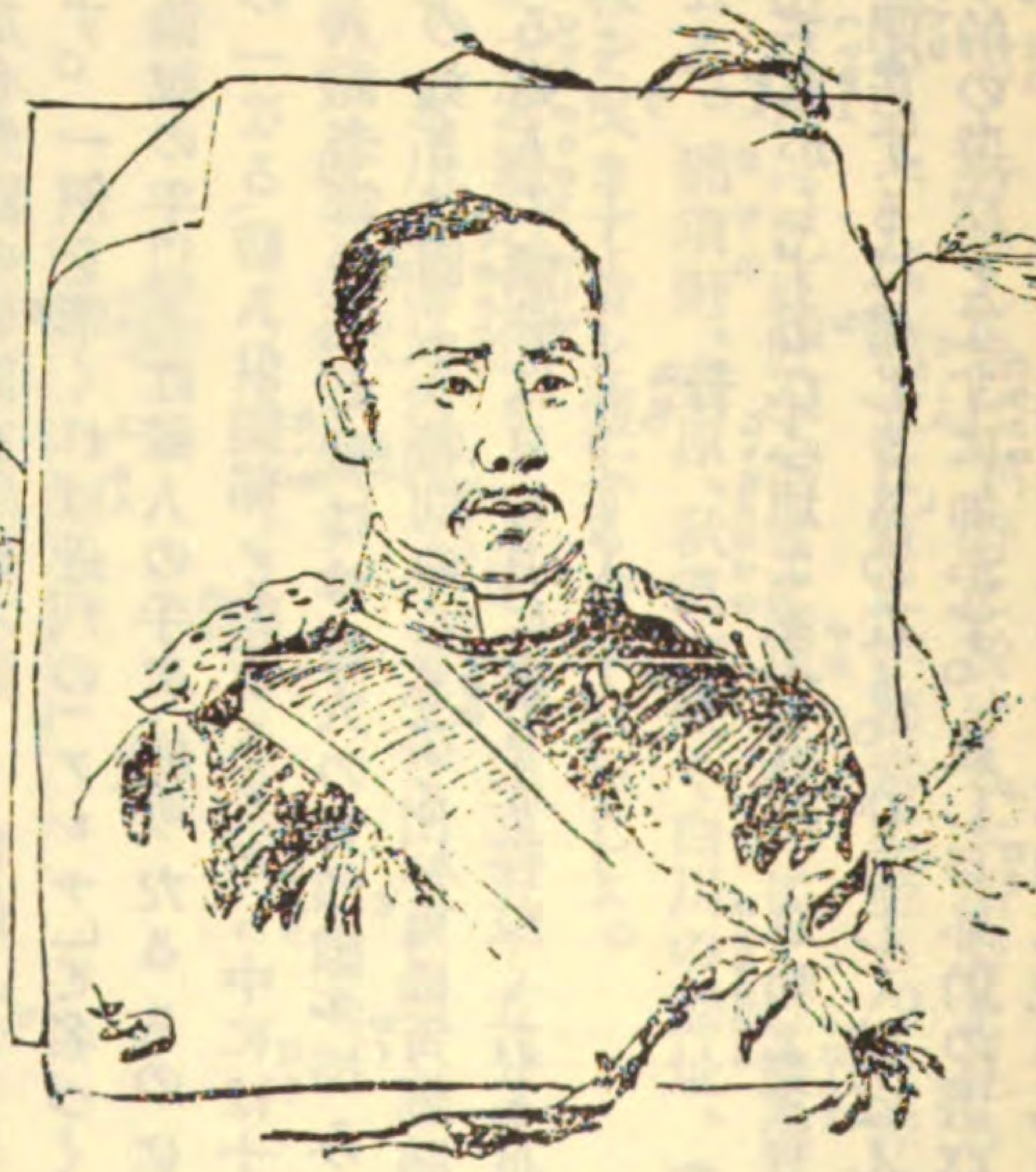
時事一斑

陸軍特別大演習

『武士の矢なみつくらふ籠手の上に、霰たばしる那須のしの原』。

霰たばしるにあらず、銃丸たばしりし維新の戰場は、今や大演習の爲に端りなく人に當年を憶ひ起さしめんとす。

大演習は八州平野の東北端下野の野に於てせらるゝものなり。大元帥陛下本月廿一日を以て宇都宮に行幸し、廿六日兵を閲し、廿七日に還御あるべしと聞く。近衛兵は小松宮之を統べ、東京師團は山地中將之に將とし仙臺軍は佐久間中將之を率ふ。而して觀兵總指揮官は有栖川大將宮なりとす。參謀長には川上中將あり、參謀には寺内歩兵大佐其他あり。寺内大佐名を正毅と稱す。善く兵を用ひ、其向ふ所は未た曾て敗れずと云ふ。



（有栖川大將宮）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

老婦人會

東京に老婦會といふあり、毎月一回老婦人集りて慈善の事をなす。之に會する者は横井時雄氏の北堂もあり。德富蘇峰氏の北堂もあり。

怪事

曰く河野某妻の生肝を取る、曰く長崎の犬姦事件、曰く横濱某校長の醜事、此等を近來の怪事となす。然れども吾人は其事の甚だ怪なるとを怪むに暇あらず、却て世の之を見て怪まざるもの、多きを怪むなり。

小兒保育會

五歳未滿の小兒の死亡數は恐るべき程に夥しきものにて之か爲めに醫學者か特を費し思を凝し、如何なる食物が最も幼年のものに適するかとの一事を、學問上の理屈より、又實驗上の方法より明にせんとて苦心せしことも亦恐ならぬ程なり。佛蘭西にては最に小兒保護の會設けられ、此の會の一部の人々は幼年者、赤兒の食物に尤もよく適する食物の種類を定めたり。此の會の盡力にて甚た嚴重なる法律、近頃佛蘭西にて發布せられ、醫師の許なくして、硬き食物を一歳未滿の小兒に與ふるものは罰せらるゝことゝなり、ゴム管の付きたる哺乳罎は用ゆることを禁ぜられ、一旦使用せし管は其の使用後必ず飲用ソーダを溶したる水の中に漬け置くべきことゝなれり、此の法律を施行せし結果は甚た見るべきものありて大に佛蘭西小兒の健康を增したりと。

婦人記者

亞米利加合衆國の雜誌文學は次第〳〵に婦人の手に歸せんとす。一例を擧くれば近刊の「アレナ」と名づくる雜誌の論說の半以上は婦人の手に成りたるものにして、其の一なる「婦人俱樂部」と題するもの、中には十一人の婦人記者筆の花を戰はせ婦人の肖像數多插みたり。此の如きは固より特別のことなるか兎に角雜誌界に於ける婦人の領分は日に月に廣まり行つゝある也。

行樂

暖ならず寒からず遊び心地よき十月は、日和よき日曜日など閉居するは惜しきものなり。ひとしく遊ばんには戶外的の遊びをなすに如かず。蓋し戶外的の遊びは戶內的のものゝ如く柔弱になり易く不德に流れ易き事少なければ。

道灌山、向島、それ〳〵に學校生徒など秋季の運動會を催すなるべし。綱引き可なり。旗奪ひ可なり。競爭

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

可なり。鬼ごッこ可なり。角力可なり。墨水淸き處に短艇を弄するも亦可なり。白露のおきまどはせる白菊の花の逕を踏み迷ふも興あるべし。菊の時代は遠からず來るなり。曰く團子坂、曰く淺草奥山、曰く染井、曰く目黒、曰く廣尾の笑花園、曰く本所の植文、曰く入谷。菊人形、俗は則ち俗なれども人工の妙寧ろ貴ぶに足るなり。團子坂の菊は廿日頃より開園

せらるゝならん、今年は新規の常設小屋にて興行する筈なれば興味はいかゞなれど却て便利はあるべしと云ふ。淺草公園の花屋敷は此頃割烹業をも開め、五階閣も客座敷に取り入れたり。且馬車さへ千束村の方よりは入り得る樣になしぬ。菊人形の飾付は不日整ふべしと聞く、開園は廿五日頃。

其他大概二十日頃より開園せらるべけれと、今年は少しおくれたりとの事なれば花の盛りは十一月上旬ならんかし。釣は沙鰛少しく遠く行かん者は下野に於ける大演習を見ることと至て興あるべし、滊車は直に宇都宮に至る。只非常なる人出なるべければ宇都宮に宿る積りにては難儀ならんと云ふ。那須野、鹽原、秋風ぞ吹く白川の關址、事の序に杖を曳きて昔を懷ぶも少なからじよ。旅人に大宮驛の茸狩り、上野より滊車五十五分にして往かる。氷川公園地内種々の茸生ひ出づと聞く。萬松樓、松林館、就て午餐を喫すべし。

寄書

社會事情一斑

有、無、

其二　近時の婦人及び靑年界

社會の流は恰も河の流の如く餘波剩浪紆廻して幾折をなすに係らず、其全體の趨勢は常に同一方向を指すなり。故に余が前回に於て説示せし文學界の波浪は、亦以て其婦人界靑年界に於ける波浪の起臥を察するに足るべし。明治十三四年に於て一時激騰したる政海の狂濤が一旦十年の後には立憲政體の美政を見るべき希望を抱て常潮に服するや、世は一轉して準備の時代となりき。明治十七八年に於て我邦出版物中教育書の數其第一に多かりしこと、實に之が一證なりとす。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

此時代の半に至り、洶湧したる政海の波浪が收拾せらるゝに當りて、自由黨解散し、大隈伯改進黨を脫し、政濤の飛沫たりし人々は爲に社會の軌道より揺り落されて所謂壯士なるものとなり、終に大坂名古屋加波山等の獄を見るに至りしと雖、一般の年少者は翕然として只管勢力蓄積の一方に傾きぬ。

此の風潮に乘じて智力收集の第一に採用されしは漢學なりき。有名なる鳳文館の豫約出版一時世を動かしぬ。然るに伊藤參議森公使等の泰西より歸りて漸々勢力を得るに及び、洋學の必要世に叫ばれ、明治十八年末に伊藤伯が井上伯等と新政を實施せし頃は遂に英學流行の時代となりき。

女子教育も亦此新潮流と共に榮へ、新施政者が社交組織の摸倣政策を執るに及びて、泰西の教育法其儘を以て、直に日本の少女を教育するに至れり。

曾て政界繁昌の後を承けて滔々たる靑年皆法律學政治學の實用講習に暇あらざりしもの、此頃に至りて踏舞宴會の流行に連れ、想像力を側方に騁するの餘地を生し、小說愛讀の期來りき。

當時人の思望する所は英米政治界の花（集會、演說の晴れ〴〵しき擧動）のみにして、昨日まで深窓に幽閉し置きたる細君を無理に連出して、不安心なる面持しながら踏舞會塲に同車し行き、以て窃に歐米某々の政治家を氣取りたる者ありしと共に、幾多の靑年も憾む所は妙齡にして雙々政界を奔走する能はざるにありき。須藤南翠が著したる小說『新粧の佳人』のお千代が褒服して演壇に立ちしと言ふが如き『綠蓑談』の某々段の如き、實に當時の社會が理想したる所なりしなり。

而して明治廿年及廿一年は婦人問題の時代なりき。宴會に於て花の如く着飾りたる渠等を見しのみならず、踏舞會塲に雲の如き裾を曳きし渠等なりしのみならず、演說に文章に到る處婦人問題の討論せられざるはあらざるなく、下記の如き多數の女學校婦人會は實に明治廿年に於て新設せられき。（表は女學雜誌に據る）

學校　佛語女學校（一月開校）東京下六番町、牛込英和學校女子部（一月）東京牛込、高等佛和女學校（二月）築地明石町、婦人洋服裁縫女學校（二月）東京京橋、洋服裁縫女學校（二月）東京富士見町、女子專門學校（一月）同小石川、女工練習會（二月）同山下町、英學館女子部（三月）同仲猿樂町、成立學舍女子部（四月一日）同駿ヶ臺、女子裁縫學校（四月）同兜町、東京女子裁縫傳習所（四月）同本鄕東竹町、女子洋服裁縫傳習會（五月）同麴町、東京女學（六月）同本鄕兼房町、女範學校（八月）同猿樂町、禮美女學校（八月）同本鄕、女子佛學校（八月）同麴町、産婆學校（十月）同三番町、大阪一致女學校（一月十日）大阪、西京私立女學校（二月）西京、私立三重女學校（一月十五日）三重、新潟英和女學校（四月）新潟、西京看病婦女學校（四月）西京、大津公立女學校（四月）大津、愛知女學校（五月）名古屋、靜岡女學校（五月）靜岡、札幌女子職業學校（七月十日）札幌、私立女子手藝學校（九月一日）神戸、ステルジイス女學校（九月）長崎、堺區立女學校（九月）大阪堺、山口女學校（九月）山口、清楊女學校（九月）前橋、愛知女學校（九月）名古屋、鹿兒島女子小學（九月）鹿兒島、高知縣尋常中學校女子部（十月）高知、愛媛縣女學校（十一月五日）伊豫松山、洋服裁縫教授所（十一月）近江今宿村、洋服裁縫所（十二月）駿州沼津、

集會　淑女會（一月創設）東京、牛込婦人會（二月）東京、日本音樂會（三月）東京、海軍慈惠會（三月一日）東京、小石川婦人談話會（三月）東京、東京婦人教育談話會（右談話會の一變したるもの）婦人工藝會（三月）東京、和樂會（四月）東京、大日本婦人文章改良會（四月）東京、東京唱歌會（六月）東京、大日本私立婦人衛生會（八月）東京、通俗婦人談話會（八月）東京、淑女以文會（十月）東京、貴婦人法話會（十一月）東京、篤志看護婦人會（十一月）東京、婦人談話會（一月比）白石、婦人勸業會（一月比）武州船橋、兵庫福原町女工塲（一月二日）兵庫、大阪婦人獎業會（二月一日）大阪、婦人協會（二月）宇都宮、婦人攻藝會（一月）仙臺、鹿島婦人協會（一月）鹿島、藤岡婦人會（二月）上州藤岡、大阪相愛會（二月）大阪、大阪婦人學習會（三月）大阪、三池婦人協會（二月）筑後三池、館林婦人會（二月）上州館林、京都婦人會（三月）西京、婦人教育改良懇親會（三月）大阪、千葉婦人懇親會（三月）千葉、久米留婦人協會（三月十三日）久留米、小倉婦人協會（三月）小倉、京都婦人慈善會（三月五日）西京、新潟婦人懇親會（三月十一日）新潟、婦人改良會（三月）掛川、靑森婦人會（三月五日）靑森、高崎女子之友（三月卅一日）高崎、婦人割烹會（四月）西京、龜山女工塲（四月）伊勢龜山、裁縫專修所（四月）信濃北小谷村、女子講學會（四月）大坂、婦人共益會（四月）名古屋、大坂婦人慈善會（四月）大坂、婦人交詢會（四月）靜岡、婦風志磁會（四月三日）筑前杵築村、京都婦人金蘭會（四月十六日）西京、京都婦人學業獎勸會（五月初）同、栃木婦人協會（四月十二日）栃木、久居女工塲（五月）近江久居、埼玉縣婦人會（五月）埼玉、紋織婦人會（五月四日）北海道膽振の紋鼈、妓風改良會（六月）越前武生、婦人茶話會（七月）新潟尋常師範學校、德島婦人慈善會（七月）德島、盛岡婦人會（七月）盛岡、熊本婦人談話會（八月）熊本、仙台婦人矯風會（八月）仙台、江浦婦人協會（八月）筑後三池江浦村、埼玉婦人協會（八月）埼玉、栗原婦人會（八月）陸前栗原、女子手藝會（八月）攝津尾崎、上田女子講話會（八月）信州上田、桃花女工塲（八月）西京、濱松婦人交際會（八月）濱松、婦人談話會（八月）高知、婦人同志會（八月）和歌山、京都婦人共勸會（九月）西京、高知婦人會（九月）高知、産婆會（九月）近江伊香西淺井、慈善學會（九月）上州助戶村、富山婦人交際會（十月）富山、婦人會（十月）近江大津、音樂演習會（十月）高知、産婆講習所（十月）西京、松山婦人會（十月）松山、大津婦人慈善會（十月）大津、金澤婦人慈善會（十月）金澤、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

横濱婦人交際會（十月）横濱、八王子女工場（十一月）武州八王子、女學講談會（十一月）三重、婦人手工講習會（十二月）下野佐野、女子育英會（十二月）仙台、熊本婦人矯風會（十二月）熊本、其盛なる想ふべきなり。

去れば明治廿年下半期より明治廿二年に及ひては、婦人に關する雜誌著書夥しく出で、民友記者の『日本婦人論』より渡邊鼎氏の『東髮案内』に至れり。民友記者の青年論は亦此頃に出でしものにて、青年奨勵の聲は同時に天下に轟き渡りき。

久しく勢力蓄積に餘念なかりし青年は皆其發表の成績を試みんと欲し、其結果や青年會となり、雜誌發兌の時代となり、一時『三號雜誌』の套語世に言ひ囃さるゝに及びぬ。

こゝに一の注意すべき事は、明治廿年末に伊井二伯の新施政と共に隆まりつめたる婦人界青年界の波瀾は、都て泰西的希望的のものなりし事これなり。其國粹的回顧の反動出でしは實に明治廿一年にして、即ち新政策の失敗及び雜誌『日本人』等の出でし頃とす。恰も文學界に於て日本古文學の再び世に出んとせし時なりき。殊に廿一年の下半期に及びては國粹的女學論の勢力侮るべからずなりき。

當時泰西的婦人論は基督教徒の口に唱へられしもの多かりしを以て、國粹的婦人論が佛教家の舌に由て反動的音響を發せしも亦可笑しと謂ふべし。

而して同く泰西的婦人教育中にても、基督教徒に由て唱へられたる精神的なりしものは、其末流『涙』と『愛』との窩底に縮りて、剛強なる青年男見をさへ女性的にしたるに係らず、猶清鮮なる色を存したりしが、其科學者に由て唱へられし物質的のものに至ては、其弊有名なる高等女學校における婚擇みとなり、教頭能勢榮氏の如き『教育ある女子にして安全なる夫婦併立の生活を遂げんとするには如何なる男子に嫁すべきか』と題する文を草し、高等教育を受けたる女子の理想的良人たるべき資格を

第一　學者たらざる可らず、
第二　洋行留學せし人たらざる可らず、
第三　性質活潑有爲にして品行方正に、
第四　多少財產ありて日常の生活に窮せず、
第五　文筆の才能ありて著述が出來、
第六　一個の識見ありて之を口にも表出し之を筆にも記述し多少其名を世間に知らるゝの人たらざる可らず、

と宣告し、政治家商法家農業家工業家醫家軍人等は皆其良人とするに適せざるものと判決したりき。南翠外史が小説『濁世』を書きしも此時にして、世人は遂に其主人公刑部要一を高等女學校長矢田部良吉氏に擬するに至りき。これ明治廿二年六月の事なりき。かの『色情哲學』若くは造化何々と題する如き書の極めて多く出版されしもの此頃の事にして、識者以て社會の趨勢を卜しぬ。果して女學校に一大恐慌來りき。

去れば明治廿二年は女學界に於て泰西主義物質的婦人教育の大失敗をなしたる日にして、一方には婦人白標倶樂部出で來り、婦人矯風會合せられ、一夫一婦の建白はなされたりしに係らず、婦人の時代と謂はんよりは寧ろ青年の時代なりき。

かの青年文學界にては青年文學者續々發出し、『都の花』『我樂多文庫』等の旗幟を建て世に目指されしと共に、天下の青年等しく新教育を實行し得べき秋來れりと叫べり。其盛況は到る處に青年會々せられしを見るも著けし。

然れども詳に之を察すれば反面は固より千態萬狀なりき。

教育に落第せしものは壯士となれり、大隈伯の條約改正を妨げしものゝ如き是なるべし。

美文を好めるものは文學界に趨りき。又婦人界に於て花圃女史竹柏園女史等の顯れしも此時なり。

活氣ありて道德の制裁に富めるものは社會改革を以て自ら任じき。中に就て其廢娼運動の如きは、渠等が勢力を試みたる最も壯快なる一事なるべし。

廢娼說は是より先植木枝盛氏に由て高知縣會に於て稱道せられぬ。而して此年の下半期には上毛青年に由て再び叫破せられ、其聲遂に全國に反響したりき。渠等は上毛十七部に散在せる二十餘の青年會を聯合し、破竹の勢を以て縣會の意向を翻し、大多數に由て廢娼を決議せしめぬ。東京に於ては廢娼會廢娼同盟會廢娼壯年義會等起り、又雜誌『廢娼』出で、島田三郎氏植木枝盛氏及び婦人界に於て佐々城豊壽女史其他ありて、主として之を唱へぬ。特に岩本善治氏の如き、其最も勉めたる一人にして、渠は日本女學界に於て決して忘るべからざるの人物なると共に、廢娼運動に於ても亦決して忘られざるべし。

當時社會腐敗の一證として繪册子屋の店頭は裸体美人圖を以て充たされしが、廢娼論等の漸く起るに及び、天下互に相戒め、十一月に至りて終に裸体美人圖の發賣は禁止せられき。

然れども廿三年に至りては其半頃より、反動の波濤再び風俗界に打ち寄せ、廢娼に逆ふて存娼を唱ふるものも顯れ、保守的勢力回顧的氣運は漸く青年界婦人界を壓しぬ。

當時女學雜誌記者廢娼の反動を見て、三大不思議に驚きたる事ありき。曰く國粹論者の存娼論、曰く教育社會の存娼論、曰く佛教社會の非廢娼論。

特に此年一月廿三日は近時の偉人新島襄氏沒して、新日本人民は其一大愛友を失へり。これ當年の最も悲むべき出來事なりとす。

而して一方には十年三千六百日間一日千秋の思を以て待たれたる帝國議會の開會するに逢ひ、政黨の離合あり、政黨員の聚散あり、世は唯縱橫駈引の聲のみとなりき。此時に當て獨り跳梁跋扈せしものは所謂壯士のみ。

其極に及びては女壯士と稱する者さへ出で來り、曾て勝演說を試みんと

したりき。

廿四年一月は遂に保安條例再度の施行を見るに至りぬ。かの日本新人民に自助論西洋品行論を授けたる君子中村敬宇翁は實に此年を以て沒しぬ。世は唯西鄕南洲の再生を夢み、露國皇太子の負傷に驚き、政海の波濤起て又伏せしのみ。保守的反動其極に達し、婦人會は寂として聲なく、滔々たる青年は齊しく回顧の波に漂へり。かの慧眼なる民友記者が其機を察して、

若し反動的革命に向て最初の抗敵をなすものあらば、それ必ず青年ならん。最後の降伏をなすものあらば、それ必ず青年ならん。而して現今の情勢に於ては、却て此の青年こそ最初の降伏者にして、今や彼等の或者は反動軍の先驅者となり、戈を揮て進歩の旗頭に向て砦戰を挑まんと欲するものゝ如し、

と歎息せしめたりき。

之を要するに一陽來復の期は實に冬至其日にありとす。而して保守的反動の冬至は已に過ぎたり、韶陽三月の春豈期すべからざらんや。天下の人心は漸く保守的反動に厭きぬ。青年の時代婦人の時代來るも亦恐くは遠きにあらざるべし。吾人は唯之を明治十九年廿年の如く流行を趁ふて貴族的に來らしめんと欲せずして、當に之を平民的の潮に乘じて來らしめんことを望むのみ。

大に投書を募る

『渡外醜業婦問題』

渠等は今如何にしつゝ在るや
渠等は素と如何なる者ぞ
渠等は如何にして渡航するや
渠等を如何にせば可ならん

文は極めて短きを要し意は極めて悉くせるを要す
期日は豫め之を定めざれども早きを厭はず
取捨は編輯員の撰擇に從ふ

社告

家庭雜誌第一號は非常なる喝采を以て江湖に迎へられ已に第三版を賣盡して今や第四版成れり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

德富健次郎譯

グラッドストーン傳

鮮明なる肖像入

印刷中

其文明暢其事清新虞氏八十年の生涯を巧みに二百頁中に縮截して瞭々圖を按ずるが如き本傳は今や已に印刷者の手にあり江湖諸君に見ふる將に旬日の中にあらんとす請ふ刮目して待て

青年と教育

本月七日發賣

定價十五錢　郵税二錢

國民叢書第三冊成る、これ民友記者が教育社會現今の形勢に激して其青年及教育に關する宿論を發揮せるものなり、これ民友記者の青年教育に關する最近の意見なり、これ痛快なる排御用教育論なり、これ高潔なる理想を青年の胸中に吹き込まんとする教訓なり、又た『新日本の青年』の續編たるべし、既に國民叢書第一冊「進歩乎退歩乎」によつて民友記者の社會論を知り、第二冊「人物管見」によつて其人物論を味ひたる者は、必ず此書によつて其教育論を知らざる可らず既に『新日本の青年』を讀みたる者は又必す此續編を讀まざる可らず

發兌元　東京日吉町　民友社

竹越與三郎著

新日本史

上卷　六版

定價金四十錢　郵税六錢

新日本史は幕府の中世より明治二十三年に至る文明史にして、近代の史學社會の一生面を開きたる者也。其如何に江湖に重んぜらるゝかは此にまた上卷の六版を重ぬるを見て知るべき也、

新日本史は徒らに事實を並列せる俗史にあらず、慧々、炬火の如き眼光を以て、世變の根底を看破し、紛々擾々たる出來事の中より常に一條の貫徹線を抓み出して示さずんば已まざる也。其議論は政治家の活識と、哲學家の深識を兼ぬ故に大膽にして且つ確實也。

其文章に至ては東西を渾化せる、一新創躰にして、華麗雄渾、大江の流るゝが如く、天馬の走るか如し、

其事實は皆な殘存せる英雄につきて搜摭を取りしを以て、正確にして疑ふべからす。其搆造は事實と議論を渾化打成せる新躰にして、新日本の活畫を見るが如し、

新日本史は事變を記し、人物を記し、傾向を記し、議論を記し、人をして新日本を見ることとパノラマの中心に立ちて四方を見るが如くならしむ、而して最後に弘化以來の年表を掲げて事實の索引に便にす、

保守黨の一派が著者を罵つて誹謗罵詈を極めたりしは、此書が如何に迂偏の見を破りしかを見るべく、事情に通ぜざるものが、其搆造を尤めたるは、適ま以て其の創見に出るを徴すべし

發兌元　東京々橋區日吉町四番地　民友社

發行兼印刷人　垣田純朗
編輯人　塚越芳太郎

發行所　東京市京橋區日吉町四番地　家庭雜誌社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

德富猪一郎序文　平田久纂譯

伊太利建國三傑

本月十五日發賣

全一册　定價二十錢　郵稅四錢

美麗なる肖像并に地圖を挿む

伊太利は如何なる國か、曰く伊太利は歐洲の日本也。伊太利人は何時、其國を再建せしか、曰く日本維新の時を距る甚だ近き時に於て。

伊太利の革命は如何にして起り、如何にして成就せしか、曰く日本維新の革命の起りたるが如く、成就せるが如くにして。

伊太利建國の三傑とは誰人か、曰くマッチニー、曰くガリバルヂー、曰くカブール。

マッチニー何人ぞ、曰く革命の豫言者也。

ガリバルヂー何人ぞ、曰く革命の俠客也。

カブール何人ぞ、曰く革命の政治家也。

然らば此書伊太利の建國史にして、又日本維新史の引例なり、また一篇の革命論也。

此の書尤も精確なるオーソリチーにより粹を拔き精を蒐め、簡にして要を得たり。革命、及ひ革命に要する立役者、豫言者、俠客、政治家を知らんと欲するものは之を讀め、添ゆるに肖像と地圖とを以てす、三傑の風采望むべく、伊太利の形勢明らかなり。

發兌元　東京日吉町　民友社

明治廿五年九月十四日遞信省認可

東京市京橋區西紺屋町廿六七番地　秀英舍印行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA